

継続的な改善活動のために！

2024

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書（抜粋）]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 大 澤 敏

令和5年の大学進学率は57.7%に達し、大学教育のユニバーサル化が続いています。また、18歳人口激減期に突入し、本学入学者の考え方、気質も大きく変化しています。これに予測困難な社会情勢が加わり、社会から必要とされる大学を標榜する本学は、常に教育の質を分析し、不断の改革を行う必要があります。科学技術立国として世界の中で日本が発展するための理工系総合大学として存続し続けるためには、社会の変化に対応しながら、イノベーションを創出できる人材の育成が不可欠です。一方で、教育の質保証や卒業生や在学生の本学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。新入生から卒業生までを網羅したKIT総合アンケート結果は、本学の教育の改善に対して多くの示唆を与えるものです。

金沢工業大学の教育目標は、Society5.0時代に必要なイノベーション力を身に付けた「自ら考え行動する技術者の育成」です。学生は本学の教育システムの中で学び、基礎知識と技能を確実に修得し、主体的に行動する人材として社会で活躍することになります。最も大切なことは、1日100科目以上開講される授業と課外活動の質、それに係わる教職員の行動であり、これが学生の成長にどのようにつながっているのかについて、学生・卒業生・教員・職員の区分で分析し、如何なる改善をなすべきかを知り、それを基にした教育改革を進める必要があります。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われますが、本学では第三者の調査・分析会社に調査結果の評価分析を依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生・在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

※本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

目 次

<1>	本調査の全体像	1
<2>	目的・目標意識、満足度、1年間の振り返りに関して	9
<3>	授業、学習支援に関して	15
<4>	学生生活に関して	21
<5>	進学、就職、卒業時の能力に関して	33
<6>	KIT-IDEALSに関して	53
<7>	卒業・修了生アンケートに関して	59
<8>	教職員アンケートに関して	65
<9>	全体のまとめ	73
<10>	調査票見本	159

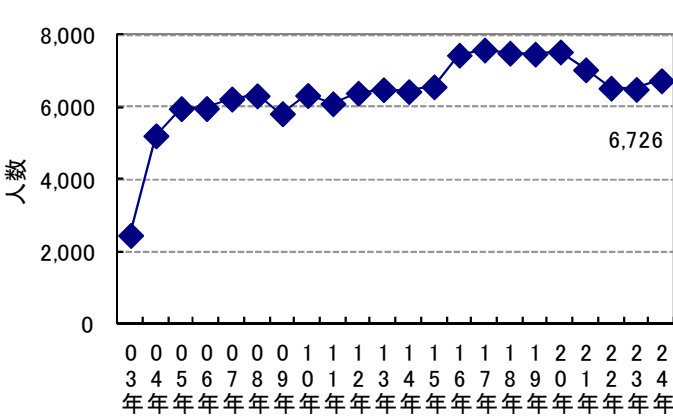
■調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在學生(新入生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」「企業担当者」を対象として、KITに対する評価や満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- 上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が22回目となる。同一内容で比較できる質問に関しては時系列変化で分析している。
- おおよそ3年ごとに実施している「企業担当者」は別報告書としており、2022年より「新入生」も別報告書としてまとめている。

■調査方法

調査時期	・ 2024年2月～4月に実施。 ・ 在學生への調査期間は、2005年の調査より、年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。
調査方法	・ 「在學生」は学内で配布、「教職員」はメールで配信し、回収ボックスで回収した。「卒業・修了生」「企業担当者」は郵送によって配布、回収している。 ・ すべて『無記名式』とした。
回収数	・ 今回の全回収数は6,726サンプルであった。(企業担当者を除く) ・ 属性別の回収数は下記の通り。
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計分析	(有)アイ・ポイント

■回答者数推移(企業担当者をのぞく)



■年度別回収数

対象者	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年
新入生	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	1,723	1,607	1,745	1,886	1,614	1,664	1,604	1,541	1,641	1,592	1,627	1,458	1,551	1,428	1,368
1年次生	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	1,293	1,411	1,299	1,562	1,587	1,447	1,519	1,361	1,384	1,438	1,395	1,435	1,107	1,193	1,205
2年次生	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	1,185	1,022	1,321	1,059	1,337	1,545	1,439	1,497	1,422	1,321	1,389	1,318	854	1,024	1,254
3年次生	106	449	441	599	768	793	643	760	781	756	741	769	744	1,520	1,312	1,350	1,387	1,349	1,274	1,457	1,169	1,176
卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	960	808	873	829	790	865	970	1,509	1,364	1,424	1,439	1,241	1,243	1,318	1,313
卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	137	149	146	144	104	125	124	121	138	124	131	153	120	86	102
教員	143	133	151	157	136	118	118	112	115	108	118	131	80	134	127	106	102	120	90	113	148	174
職員	187	131	134	153	144	109	155	148	202	139	143	93	91	122	106	86	78	71	63	76	120	134
企業担当者	—	—	485	—	—	660	—	—	686	—	—	872	—	—	846	—	—	703	—	—	—	416
全体(企業除く)	2,454	5,205	5,955	5,962	6,221	6,309	5,820	6,318	6,095	6,387	6,482	6,425	6,561	7,432	7,574	7,491	7,466	7,521	7,032	6,521	6,486	6,726

※2014年より、「卒業・修了直前」は「卒業直前」と「修了直前」に、「卒業・修了生」は「卒業生」と「修了生」に分けて調査票を作成したが、件数としては合わせた数で表示している。

■属性別回収率

属性	配布数(在学者数)	回収数	回収率
新入生	1,418	1,368	96.5%
1年次生	1,596	1,205	75.5%
2年次生	1,532	1,254	81.9%
3年次生	1,363	1,176	86.3%
卒業直前	1,499	1,166	77.8%
修了直前	208	147	70.7%
卒業生	1,172	85	7.3%
修了生	187	17	9.1%
教員	275	174	63.3%
職員	327	134	41.0%
全体	9,577	6,726	70.2%

※「配布数」は「新入生」～「3年次」は在学者数であるが、その他は調査票を配布した数となる。

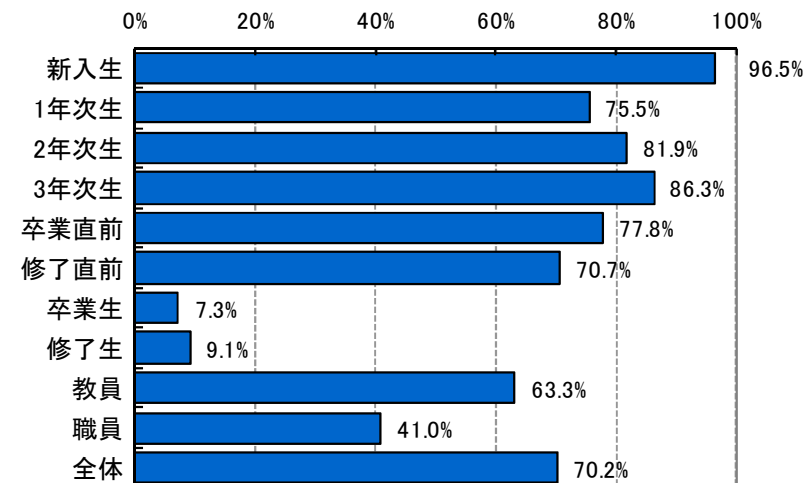
■学部別・学科別回収率(新入生、1年次生、2年次生、3年次生)

学部	学部別 在籍者数	学部別 回収数	学部別 回収率	学科	学科別 在籍者数	学科別 回収数	学科別 回収率
工学部	3,338	2,781	83.3%	機械	688	596	86.6%
				航空システム	151	123	81.5%
				ロボティクス	346	271	78.3%
				電気電子	724	568	78.5%
				情報工学	1,108	928	83.8%
				環境土木工	321	295	91.9%
情報 フロンティア 学部	1,102	938	85.1%	メディア情報	689	569	82.6%
				経営情報	261	229	87.7%
				心理科学	152	140	92.1%
建築学部	942	784	83.2%	建築	942	784	83.2%
バイオ・化学部	527	461	87.5%	応用化学	270	227	84.1%
				応用バイオ	257	234	91.1%
全体	5,909	4,964	84.0%	全体	5,909	4,964	84.0%

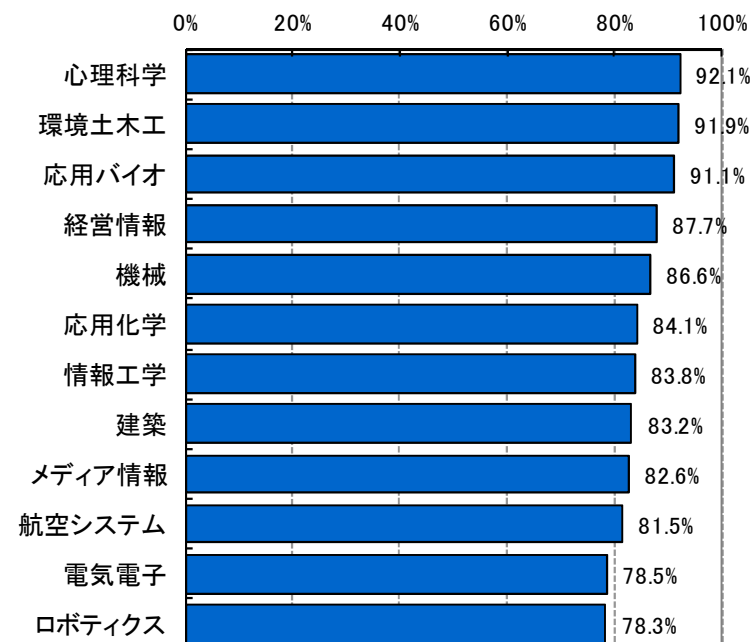
※「卒業直前」「卒業生」も12学科であるが、上記の表には加えていない。

※回収率に関しては、学科無回答の39名を除外して集計している。

■属性別 回収率比較



■学科別 回収率比較(新入生～3年次生)

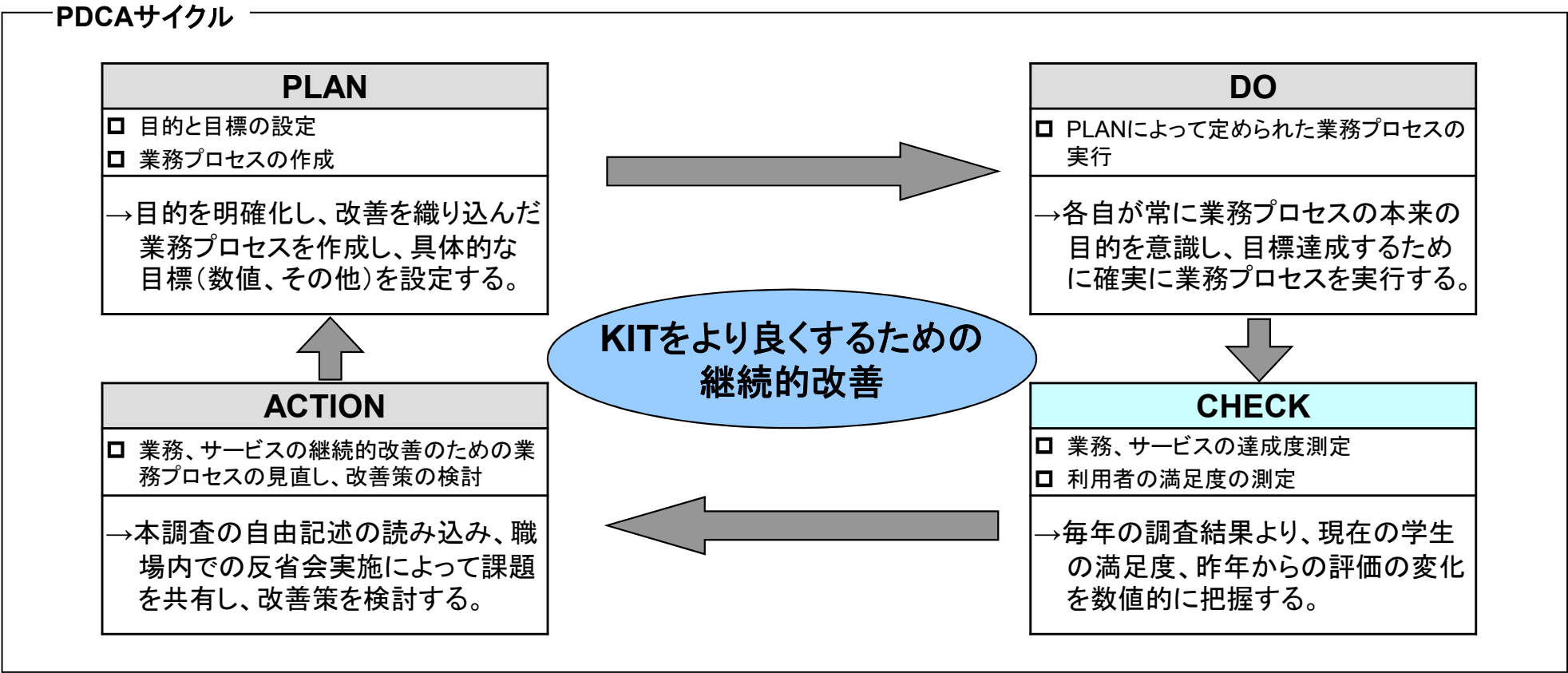


■集計に関して

分野	注意点
分析に関して	・「目的・目標意識」「総合満足度」などの、重要な指標に関しては「単純集計」「年度別比較」の他に「男女別」「学年別」「学科別」などの属性別のグラフを提示し、分析を行っているが、その他の項目に関しては「単純集計」「年度別比較」のみの分析とし、属性別に関しては巻末にグラフだけを掲載している。 ・報告書内では属性別比較を行っているが、「全体集計」と「属性別比較」の結果が異なっているケースもある。これは、「全体集計」ではすべてのデータが集計対象となるが、属性が未回答の場合は「属性別集計」では集計対象とならないためであり、これらの数値はそのまま表示している。
無回答に関して	・特に但し書きがない場合は、無回答は集計から除外している。
加重平均に関して	・各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 ・今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 ・加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 ・「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	・折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。
誤差に関して	・報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」などもこのルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

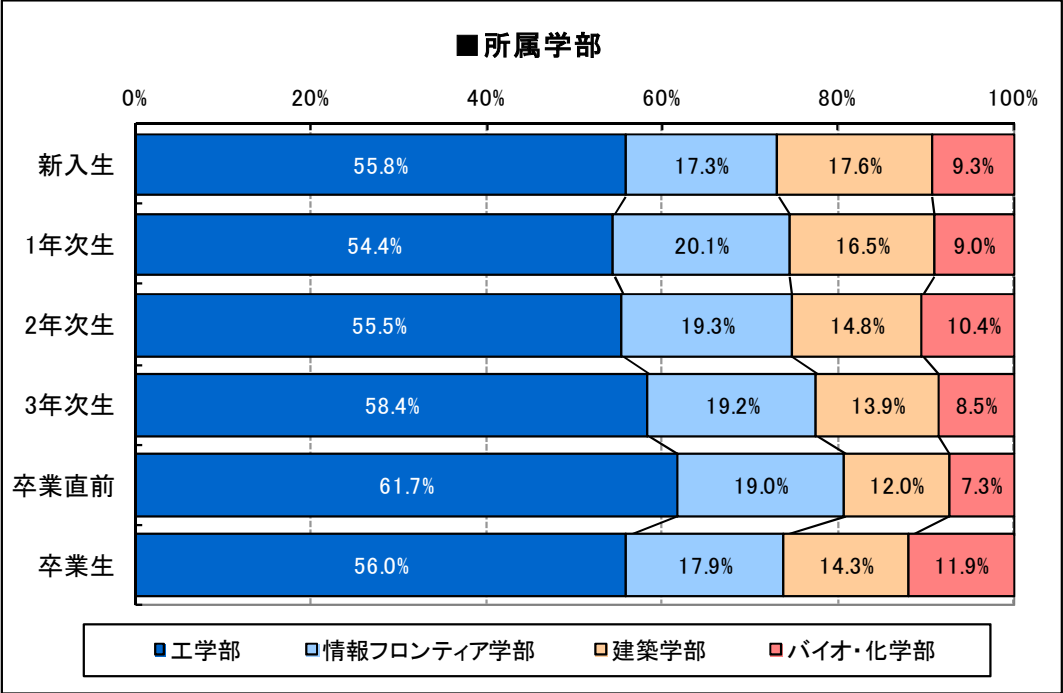
本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか？」「自らが設定した目標は達成したのか？」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

<1-3> 在学生・卒業生の基本属性

■ 所属学部、学科

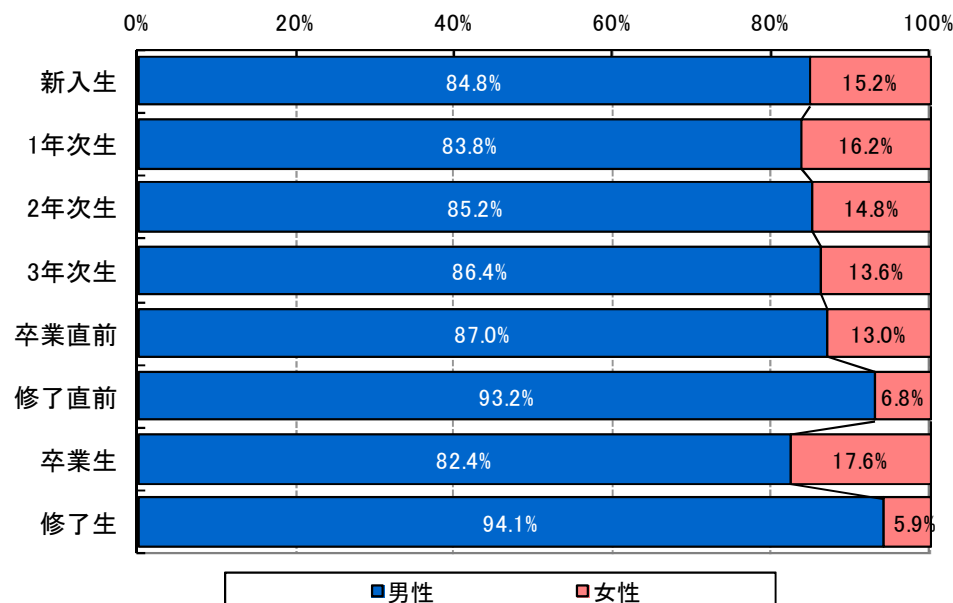


■ 所属学科

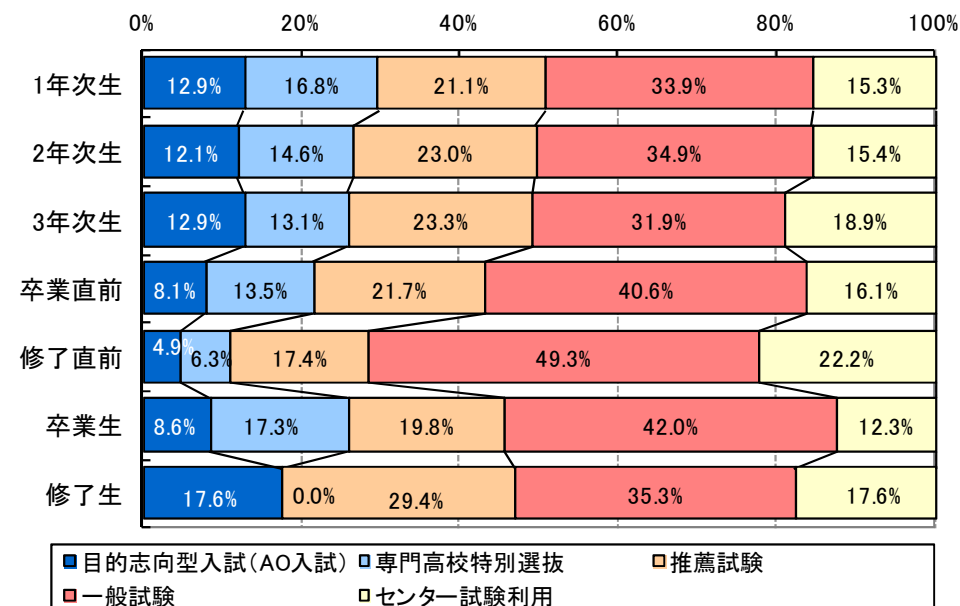
	機械 工学科	航空 システム 工学科	ロボティクス 学科	電気電子 工学科	情報 工学科	環境土木 工学科	メディア 情報学科	経営情報 学科	心理科学科	建築学科	応用化学科	応用バイオ 学科	総計
新入生	12.1%	2.0%	5.1%	8.8%	23.5%	4.3%	11.5%	3.8%	1.9%	17.6%	4.9%	4.3%	100.0%
1年次生	11.7%	3.0%	4.9%	7.9%	20.6%	6.3%	11.8%	5.3%	3.0%	16.5%	4.9%	4.1%	100.0%
2年次生	10.9%	2.2%	4.7%	15.6%	15.2%	6.9%	11.2%	5.5%	2.6%	14.8%	4.8%	5.6%	100.0%
3年次生	13.3%	2.8%	7.2%	13.7%	14.9%	6.5%	11.3%	3.9%	3.9%	13.9%	3.7%	4.8%	100.0%
卒業直前	16.0%	4.1%	7.2%	15.9%	12.7%	5.8%	9.4%	6.4%	3.2%	12.0%	3.7%	3.6%	100.0%
卒業生	7.1%	2.4%	6.0%	25.0%	4.8%	10.7%	10.7%	2.4%	4.8%	14.3%	6.0%	6.0%	100.0%

■性別、出身高校の課程、入学に至った入試

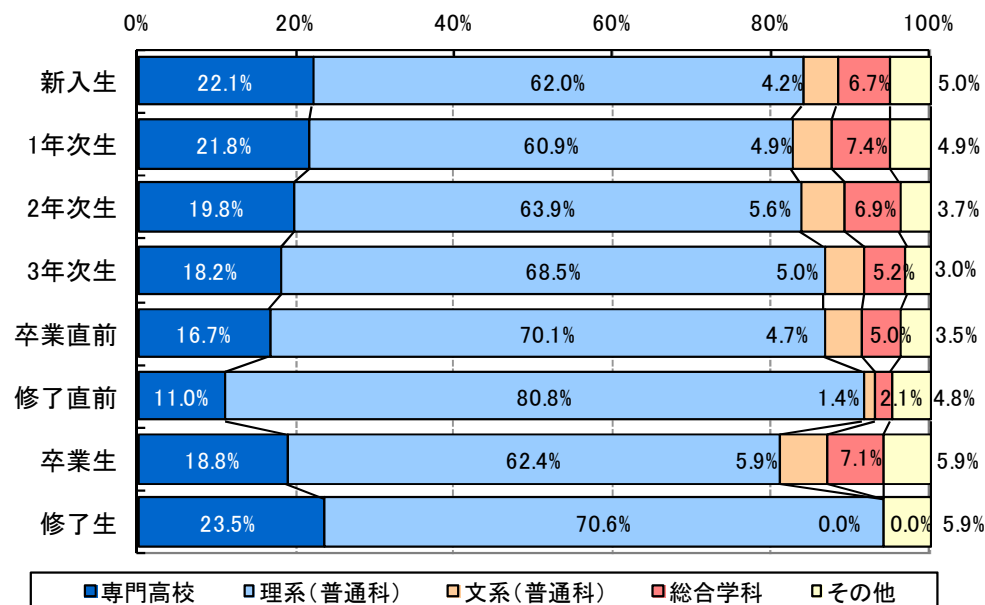
■性別



■入学に至った入試(新入生以外)

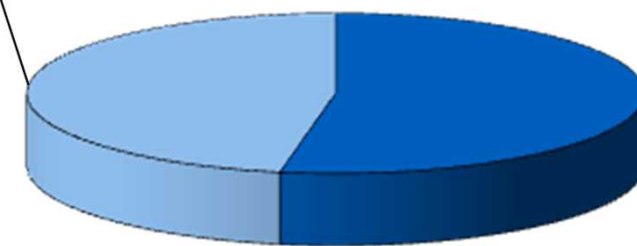


■出身高校の課程



■入学に至った入試(新入生)

一般試験、大学入学共通テスト利用、
一般試験・共通テストプラス
47.1%



※2021年より、新入生のみ「入学に至った入試」の選択肢が2つになっている。

目的志向型入学、
専門高校特別選
抜、推薦試験
52.9%

出身地域

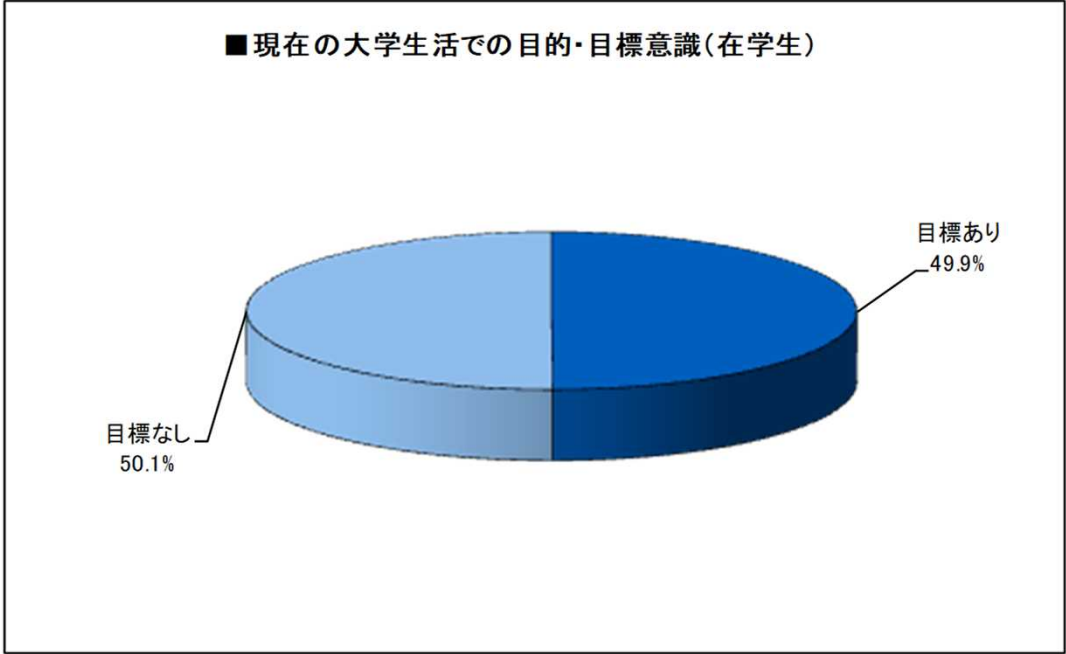
在学生の出身地域

	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	50	90	194	581	136	84	35	23	1,193
	4.2%	7.5%	16.3%	48.7%	11.4%	7.0%	2.9%	1.9%	100.0%
2年次生	72	72	195	623	146	89	32	15	1,244
	5.8%	5.8%	15.7%	50.1%	11.7%	7.2%	2.6%	1.2%	100.0%
3年次生	46	70	167	556	173	103	35	10	1,160
	4.0%	6.0%	14.4%	47.9%	14.9%	8.9%	3.0%	0.9%	100.0%
卒業直前	48	59	165	539	200	101	35	16	1,163
	4.1%	5.1%	14.2%	46.3%	17.2%	8.7%	3.0%	1.4%	100.0%
修了直前	7	10	17	61	30	11	6	3	145
	4.8%	6.9%	11.7%	42.1%	20.7%	7.6%	4.1%	2.1%	100.0%
全体	223	301	738	2,360	685	388	143	67	4,905
	4.5%	6.1%	15.0%	48.1%	14.0%	7.9%	2.9%	1.4%	100.0%

※新入生は47都道府県で聞いており、新入生だけの報告書に記載している。

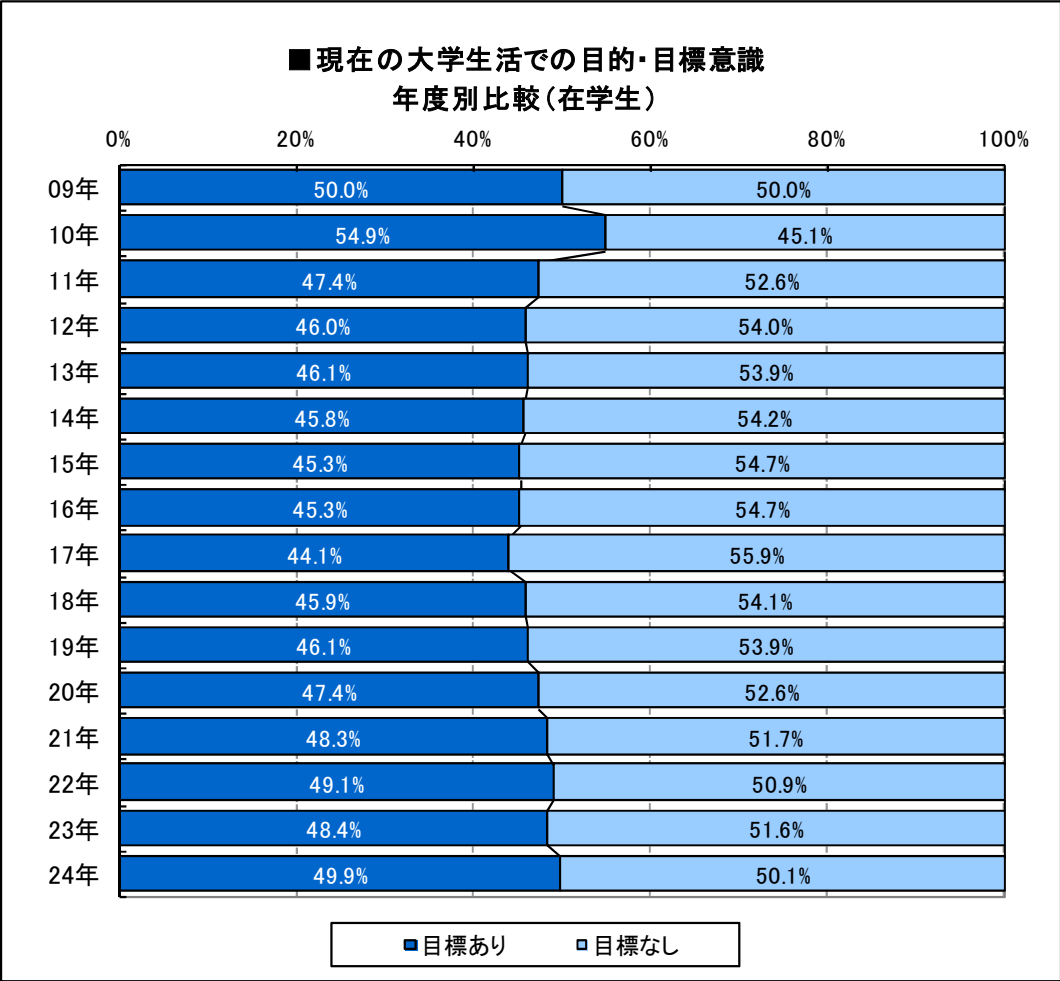
■現在の目的・目標意識

- 「大学生活を送る上での目的・目標の有無」を見ると、「目標あり」が49.9%、「目標なし」が50.1%と、ほぼ半々の割合となっていた。
- 年度別に比較すると、「目標あり」は前回は1.5ポイント上回り、11年以降では最も高くなっていた。



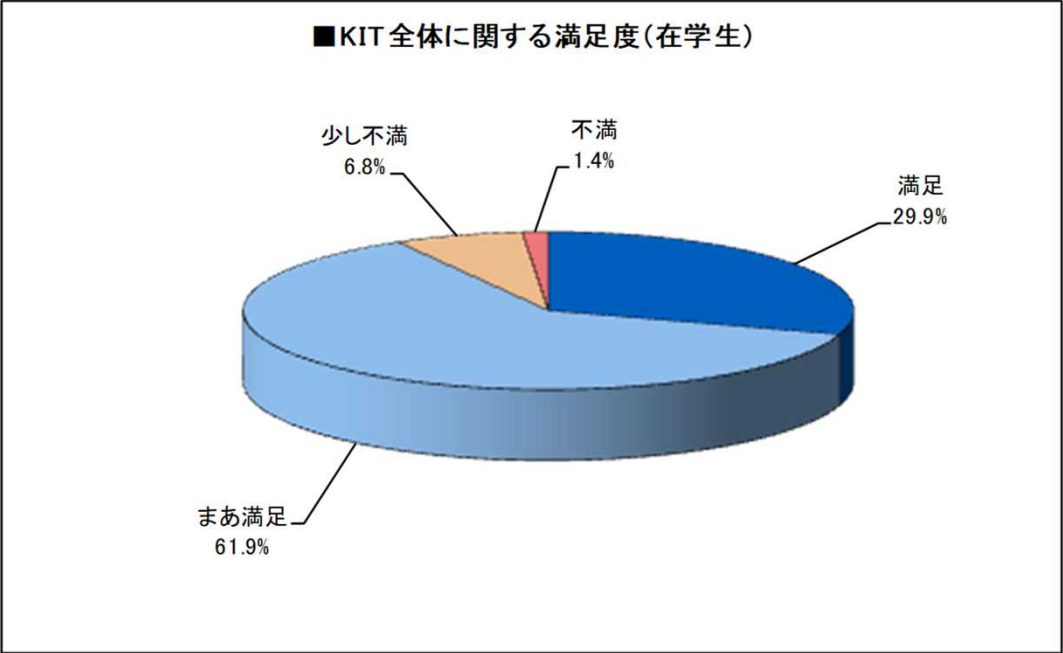
目標あり(49.9%) < 目標なし(50.1%)

※この質問は「新入生」「在学生(卒・修直前を含む)」「卒業生」「修了生」に聞いているが、このページのグラフは年度別の比較が可能な「在学生」のみを対象として比較しており、次項以降のグラフは「新入生」「卒業生」「修了生」も含めて比較をしている。



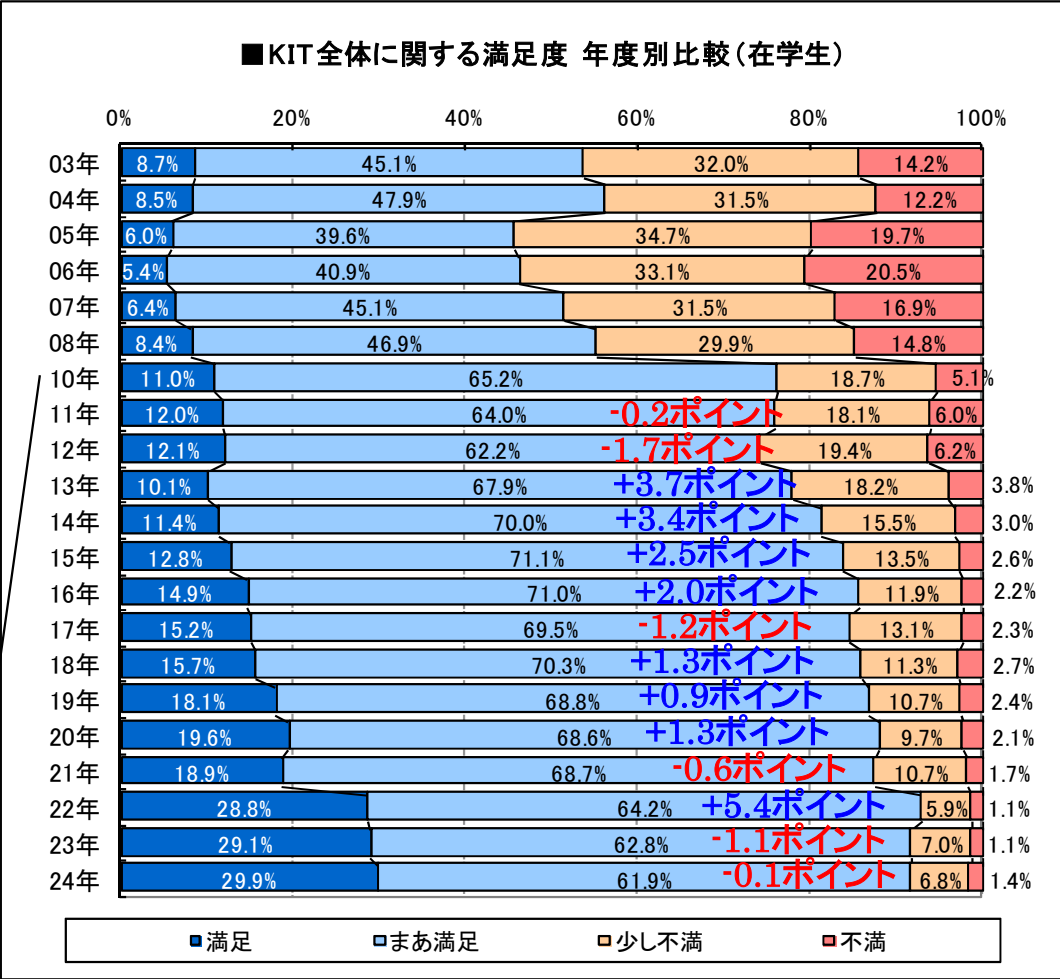
■KIT全体に関する満足度

- 「KIT全体に関する満足度」を見ると、「満足」が29.9%、「まあ満足」が61.9%で、合わせると満足度は91.8%であった。一方、不満という回答の合計は8.2%となっていた。
- KITの総合満足度の質問文は、08年までは「今のKITに満足していますか？」と聞いており、09年には質問を行わなかった。そして、10年からは「KIT全体に関する満足度」として、「満足」～「不満」を選ぶ聞き方に変更している。
- 質問が統一された10年以降を見ると、満足度は12年まで横ばいで、13年以降は例外はあるものの基本的には増加傾向が続き、22年に過去最高となった後にわずかに低下していた。そして、今回は前回から0.1ポイント低下したものの、高い満足度を維持していた。「満足」という回答だけを見ると、29.9%と過去最高となっており、22年から強く満足している学生が多い状況が続いていた。



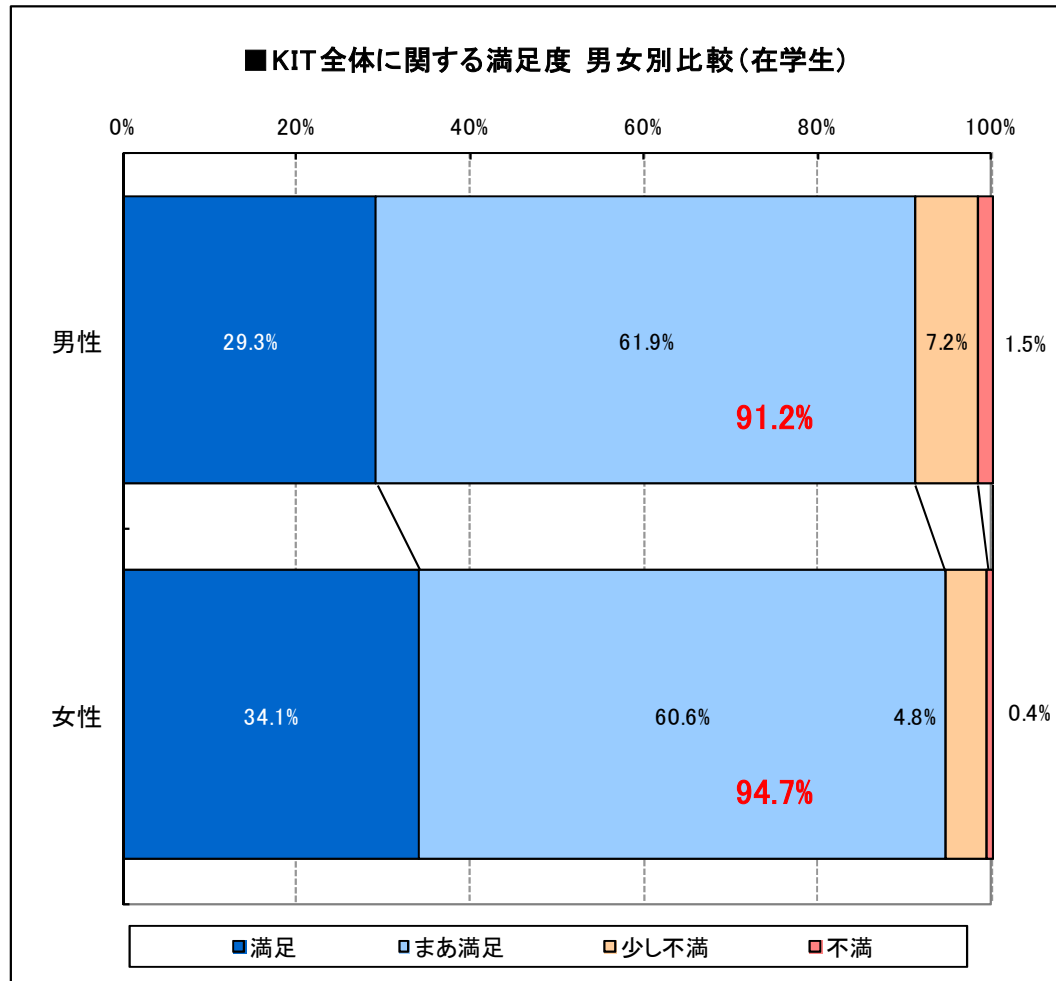
満足している(91.8%) > 不満を持っている(8.2%)

10年から聞き方が
変わっている



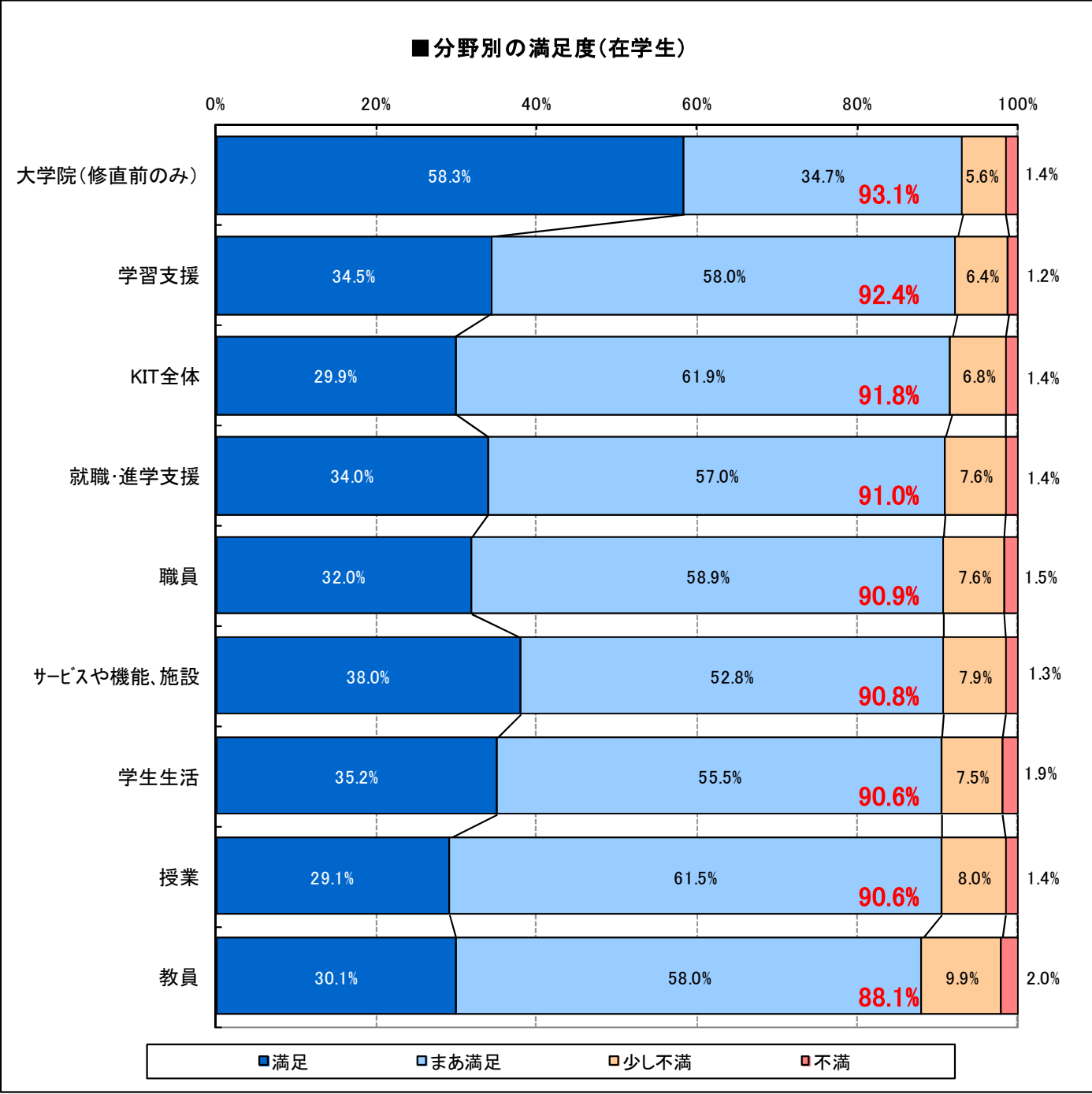
■KIT全体に関する満足度 男女別比較

- 満足度を男女別に比較したところ、「男性」が91.2%、「女性」が94.7%となっており、「女性」の方が3.5ポイント多かった。



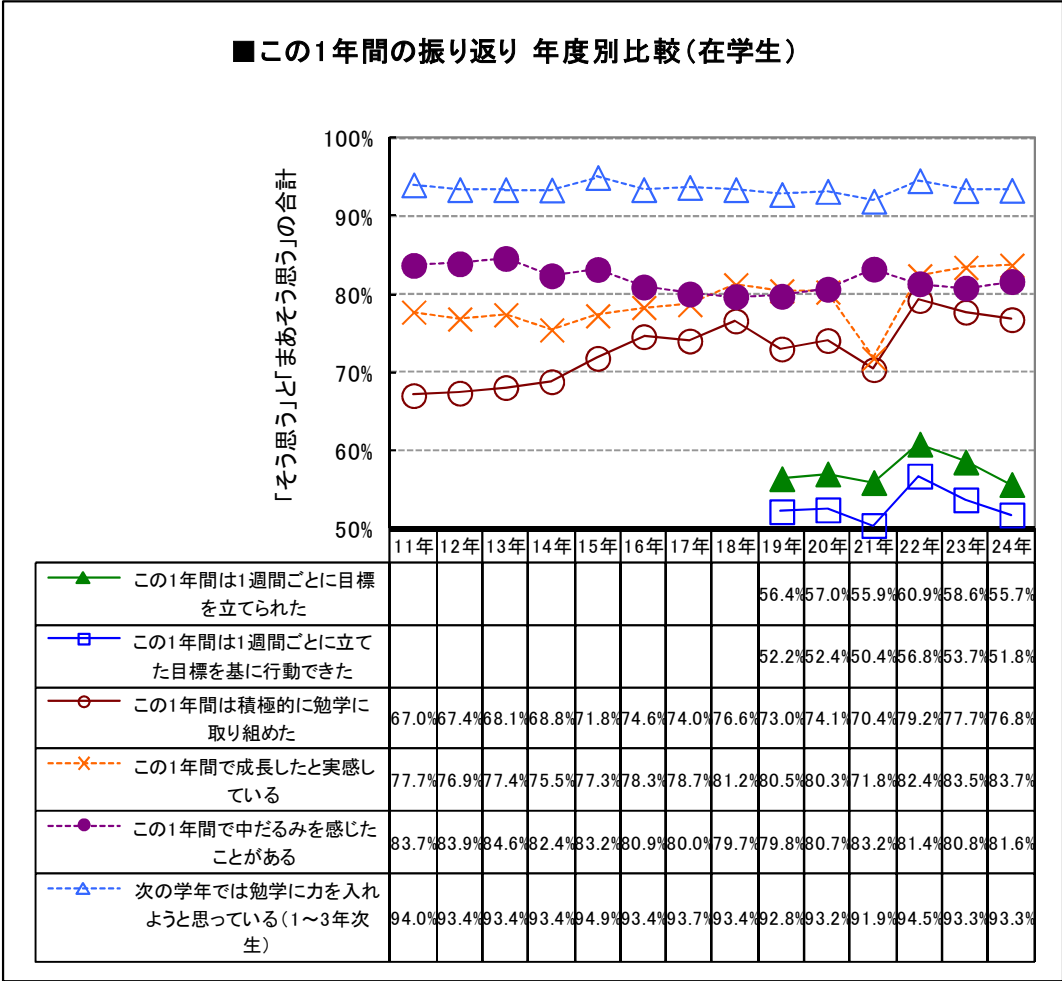
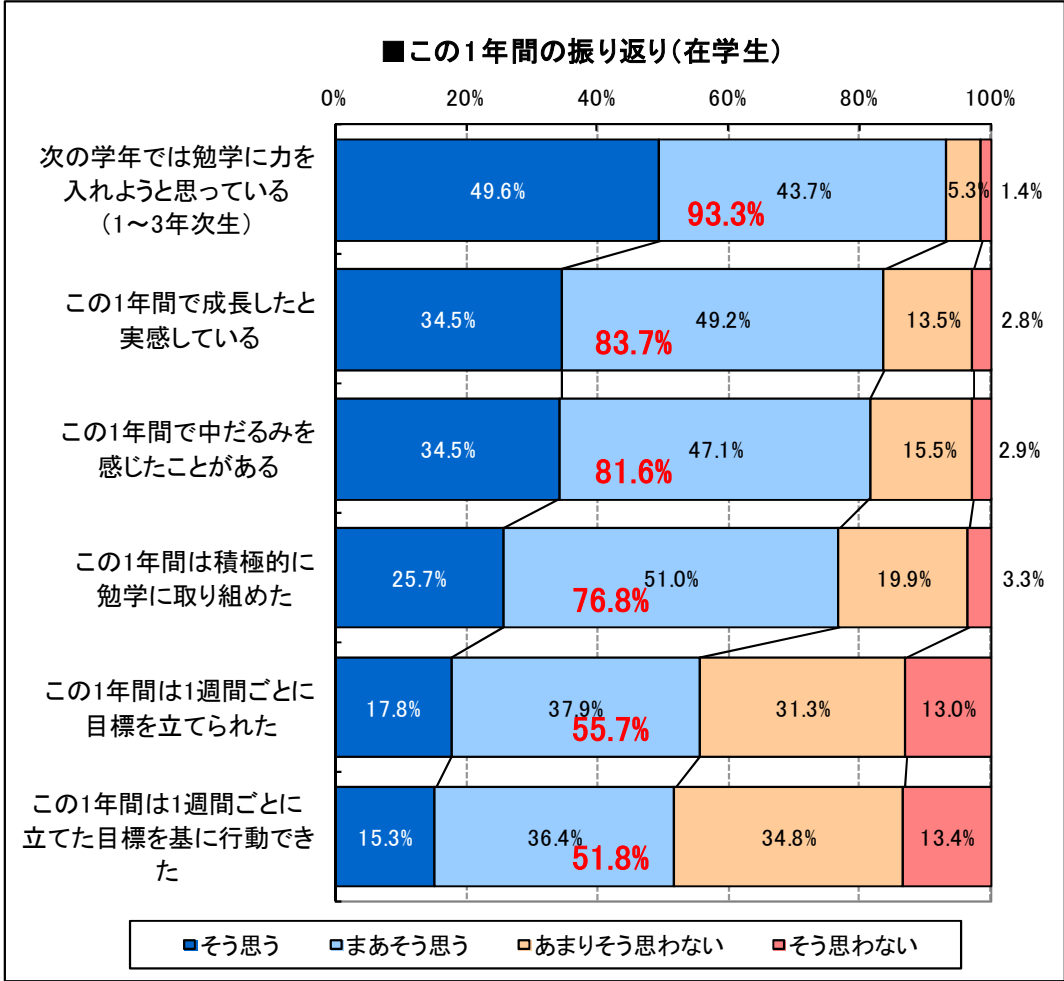
■分野別満足度

- 大学生活の9分野の満足度で最も高かったのは「大学院」の93.1%であった。これは「修了直前」のみに聞いているが、「満足」が58.3%と非常に多く、強く満足しているようであった。
- 上記に次いで、「学習支援」が92.4%、「KIT全体」が91.8%、「就職・進学支援」が91.0%で続いていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「教員」の88.1%で、唯一、90%を下回っており、「授業」と「学生生活」が90.6%で続いていた。



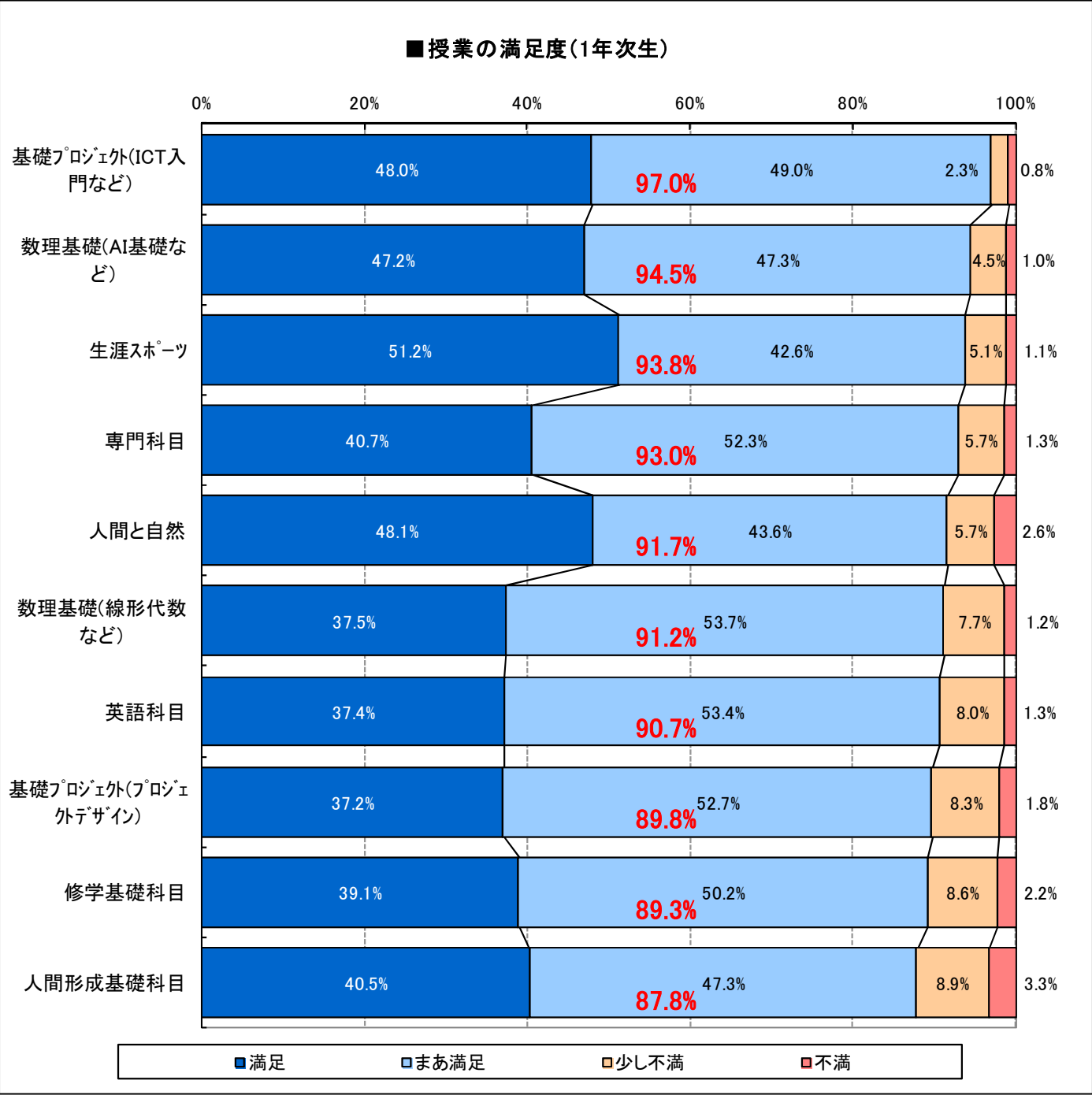
■この1年間の振り返り 年度別比較

- 「この1年間の振り返り」で肯定的な意見が最も多かったのは、1～3年次生だけに聞いた「次の学年では勉学に力を入れようと思っている」の93.3%であった。次いで、「この1年間で成長したと実感している」が83.7%、「この1年間で中だるみを感じたことがある」が81.6%で続いており、約8割の学生が成長実感と中だるみを感じているという意見となっていた。
- 一方、肯定的な意見が少なかったのは、「この1年間は1週間ごとに立てた目標を基に行動できた」の51.8%と、「この1年間は1週間ごとに目標を立てられた」の55.7%であり、目標を立てることと、それに基づく行動に苦手意識が感じられた。
- 年度別の比較を見ると、「この1年間は1週間ごとに目標を立てられた」と「この1年間は1週間ごとに立てた目標を基に行動できた」は22年から低下傾向が続いており、前者は過去最低となっていた。一方、他の項目はほぼ横ばいで、「この1年間で成長したと実感している」はわずかな差ではあるが、過去最高となっていた。



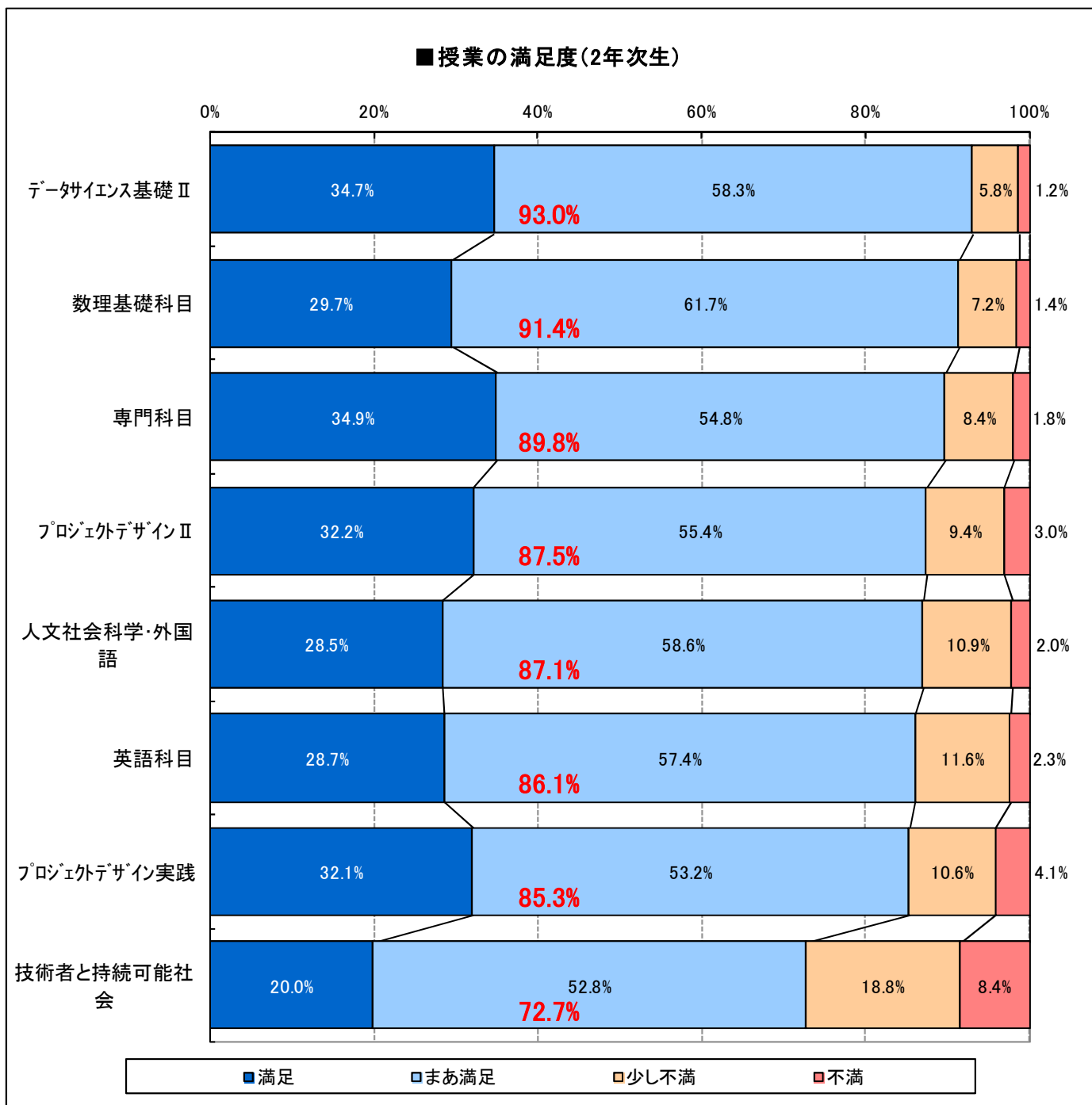
■授業の満足度 1年次生

- 「1年次生」の授業で満足度が最も高かったのは「基礎プロジェクト(ICT入門など)」の97.0%であり、「数理基礎(AI基礎など)」が94.5%、「生涯スポーツ」が93.8%が続いていた。
- 一方、最も低かったのは「人間形成基礎科目」の87.8%であり、「修学基礎科目」が89.3%、「基礎プロジェクト(プロジェクトデザイン)」が89.8%となっていた。
- 満足度の内訳を見ると、「満足」という回答は「生涯スポーツ」が51.2%で最も高く、「人間と自然」が48.1%が続いており、満足度の順位とは異なっていた。



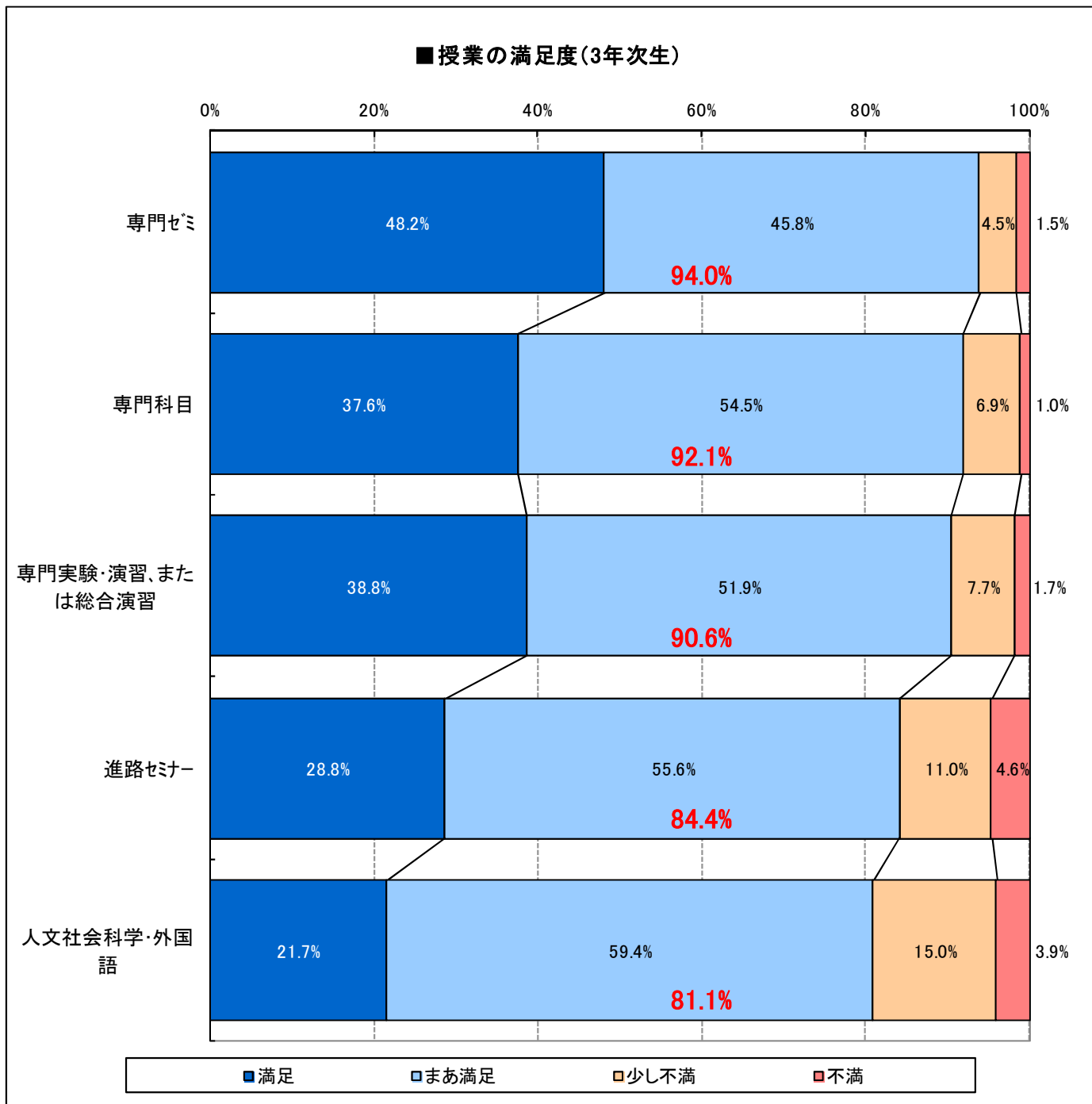
■授業の満足度 2年次生

- 「2年次生」の授業で満足度が最も高かったのは「データサイエンス基礎Ⅱ」の93.0%であり、「数理基礎科目」が91.4%、「専門科目」が89.8%で続いていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「技術者と持続可能社会」の72.7%で、他と比べても低さが目立っており、「満足」も20.0%と少なかった。



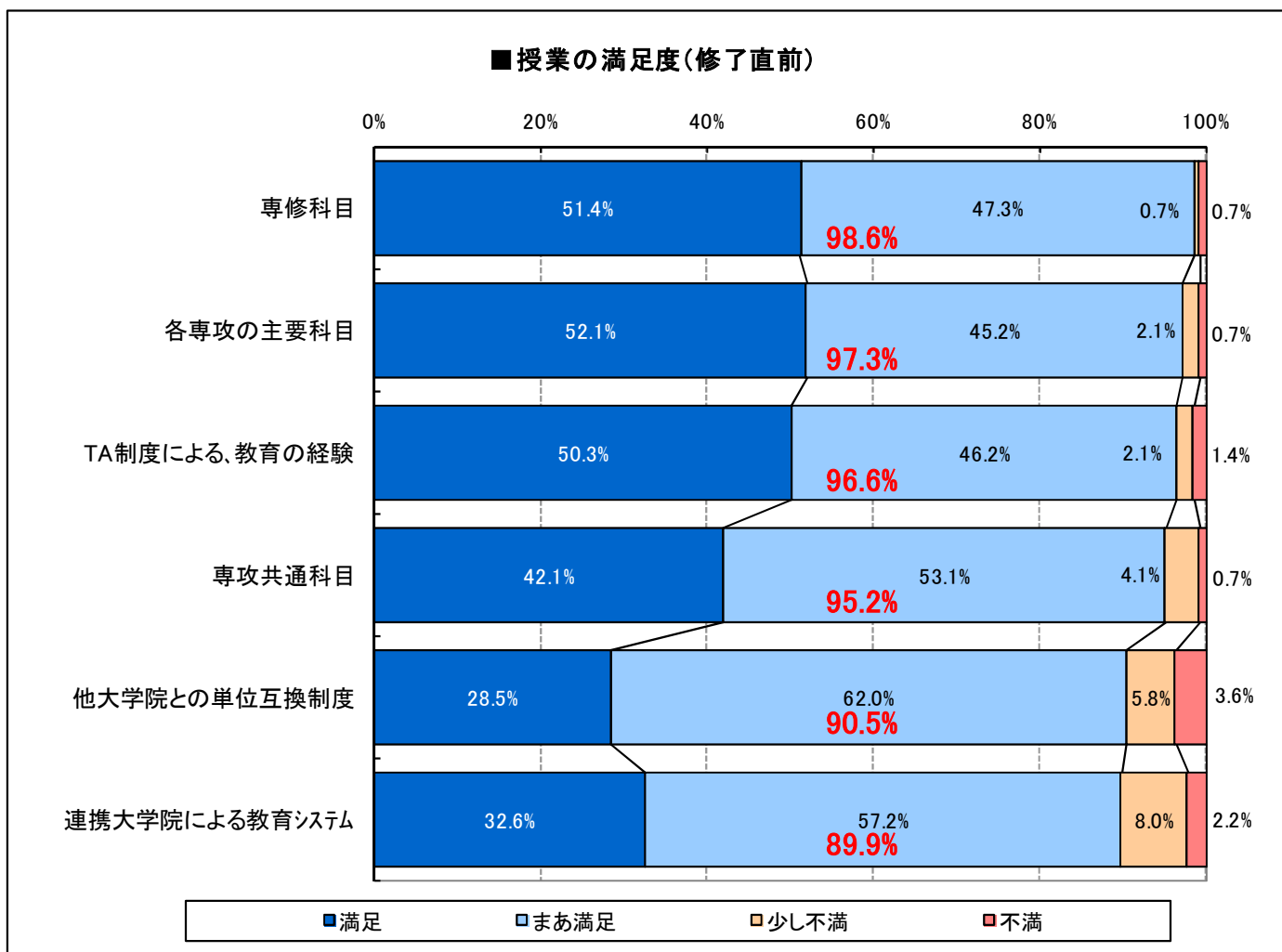
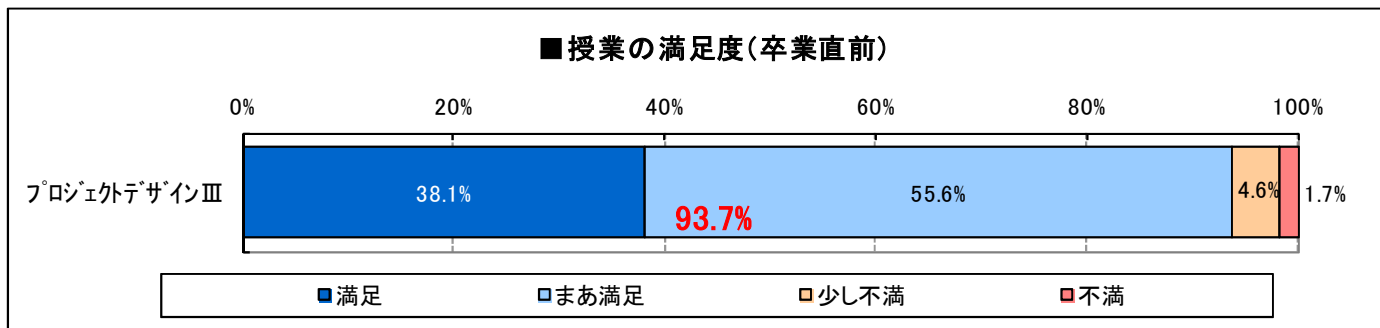
■授業の満足度 3年次生

- 「3年次生」の授業で満足度が最も高かったのは「専門ゼミ」の94.0%であり、「満足」が48.2%と半数に近かった。そして、「専門科目」が92.1%、「専門実験・演習、または総合演習」が90.6%で続いていた。
- 一方、最も低かったのは「人文社会科学・外国語」の81.1%であった。



■授業の満足度 卒業・修了直前

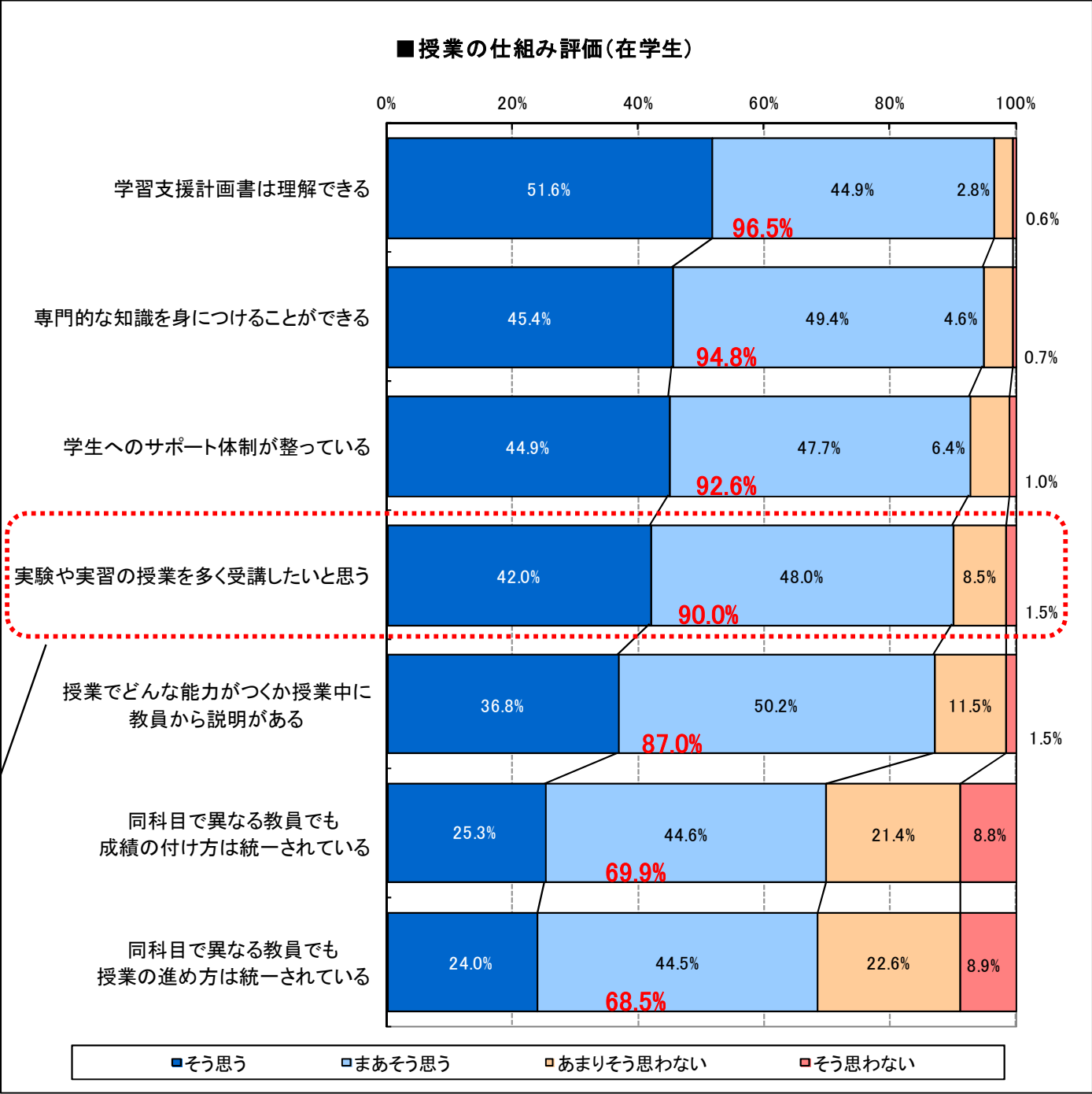
- 「卒業直前」の授業は「プロジェクトデザインⅢ」の1科目だけであるが、満足度は93.7%と高かった。
- 「修了直前」の授業で満足度が最も高かったのは「専修科目」の98.6%であり、次いで、「各専攻の主要科目」が97.3%、「TA制度による、教育の経験」が96.6%で続いており、この3科目は「満足」が50%以上となっていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「連携大学院による教育システム」の89.9%であったが、これも十分に高い満足度と言える。



■授業の仕組み評価

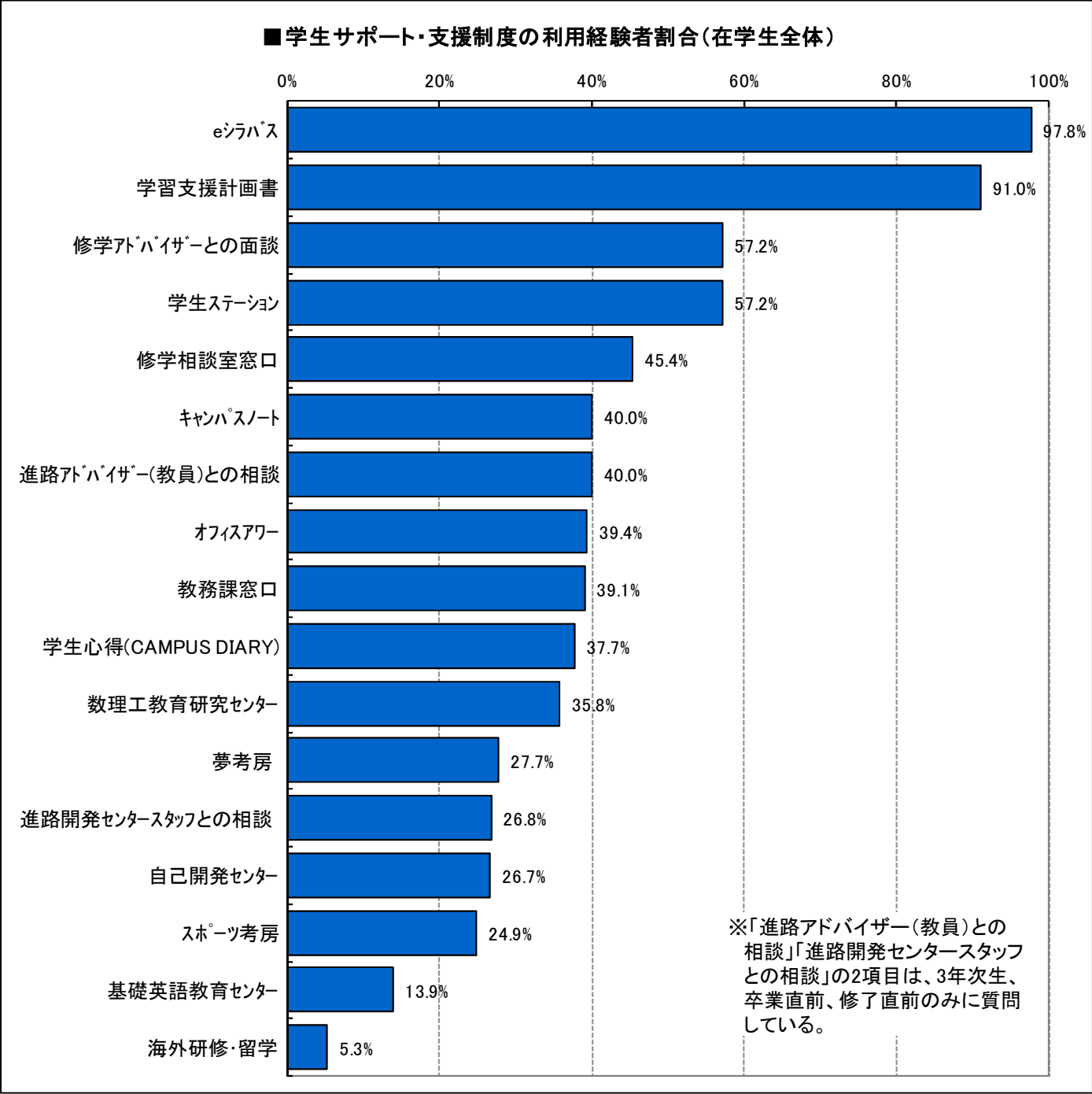
- 授業の仕組みの評価として、現状の評価を聞く6つの質問と、要望を聞く1つの質問を聞いている。
- 現状の評価を聞く質問で肯定的な意見が最も多かったのは「学習支援計画書は理解できる」の96.5%であった。次いで、「専門的な知識を身につけることができる」が94.8%、「学生へのサポート体制が整っている」が92.6%で続いていた。
- 一方、評価が低かったのは「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」の68.5%と「同科目で異なる教員でも成績の付け方は統一されている」の69.9%であり、「同科目で異なる教員の対応」に対する不満が見られた。
- 要望を聞く質問は「実験や実習の授業を多く受講したいと思うか？」であるが、90.0%が肯定的な回答となっており、強い要望が感じられた。

要望を聞く質問



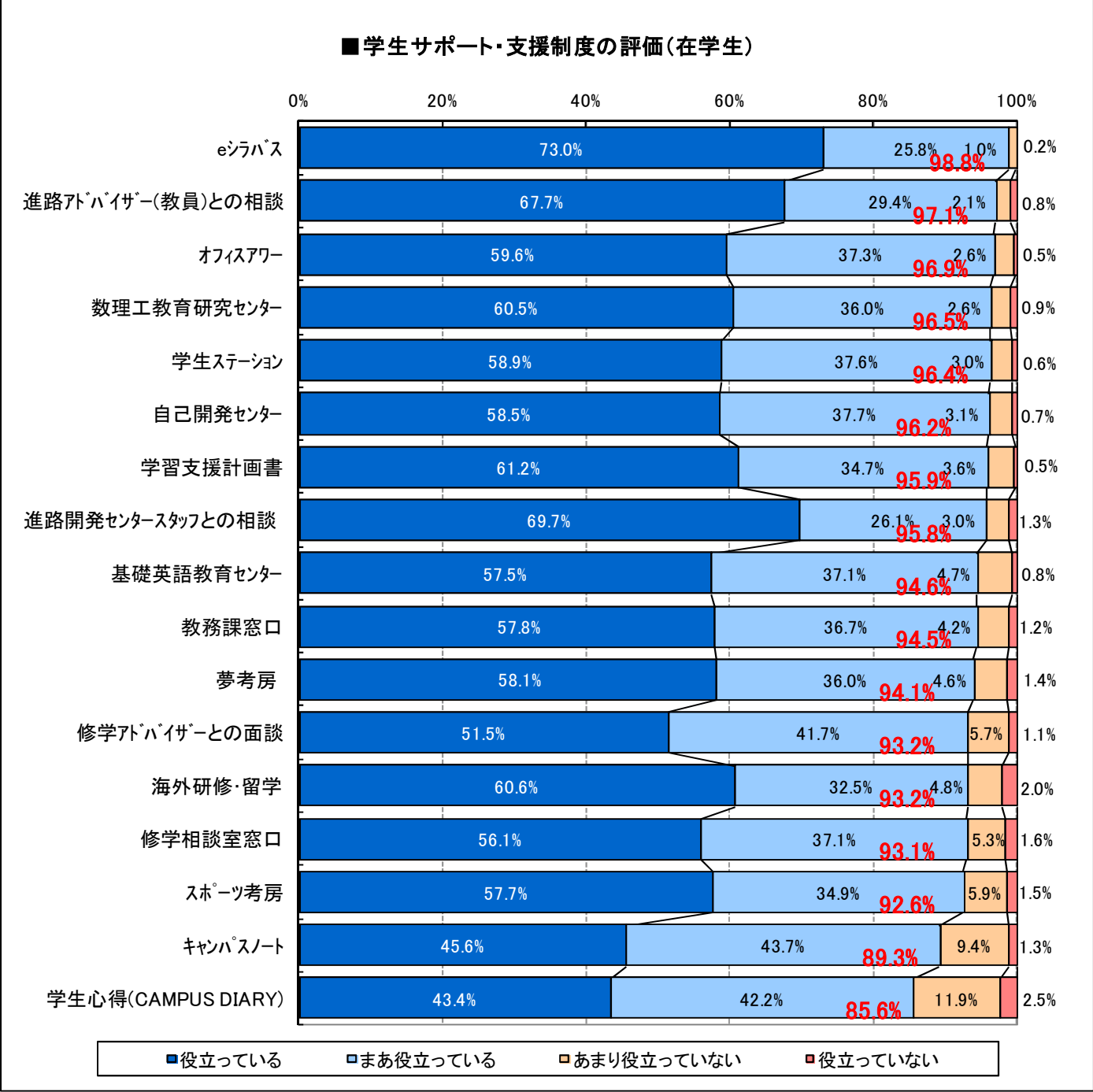
■ 学生サポート・支援制度の利用経験者割合

- 学生サポート・支援制度で利用経験者の割合が最も高かったのは、「eシラバス」の97.8%であり、「学習支援計画書」の91.0%とともに高さが目立っていた。
- 上記に次いで、「修学アドバイザーとの面談」と「学生ステーション」が57.2%、「修学相談窓口」が45.4%で続いていた。
- 一方、利用経験者の割合が最も低かったのは「海外研修・留学」の5.3%であり、他と比べて低さが目立っていた。



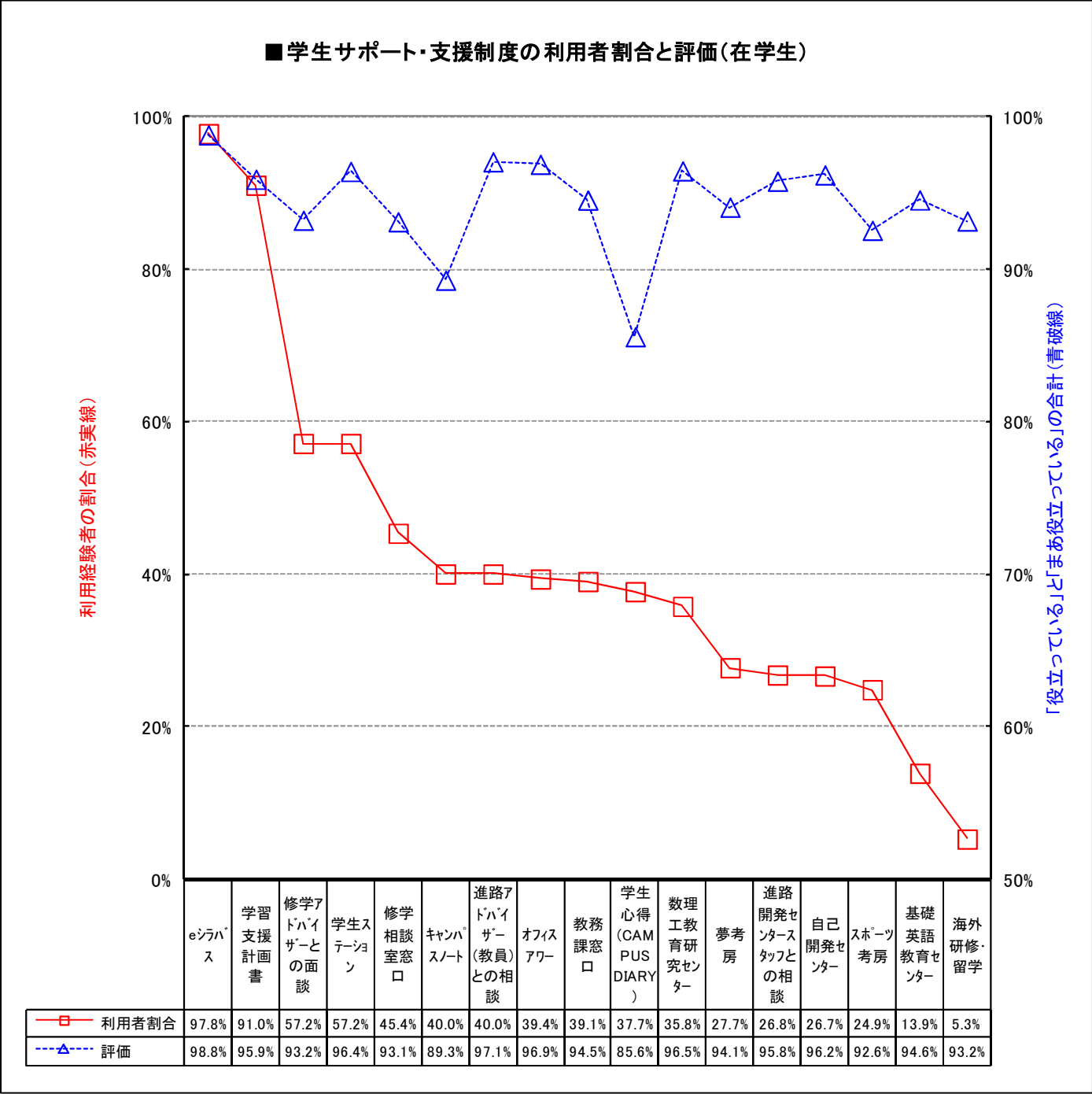
■学生サポート・支援制度の評価

- 「学生サポート・支援制度」を「利用している」と答えた学生に、各々のサポート・支援制度の評価を聞いたところ、すべての項目で肯定的な意見が85%以上となり、全体的に高い評価となっていた。
- 最も評価が高かったのは「eシラバス」の98.8%であった。利用率では「eシラバス」とともに「学習支援計画書」も高かったが、こちらの評価は95.9%と、少し差がついていた。
- 上記に次いで、「進路アドバイザー(教員)との相談」が97.1%、「オフィスアワー」が96.9%、「数理工教育研究センター」が96.5%で続いていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「学生心得(CAMPUS DIARY)」の85.6%であったが、これも、決して低い評価ではなかった。



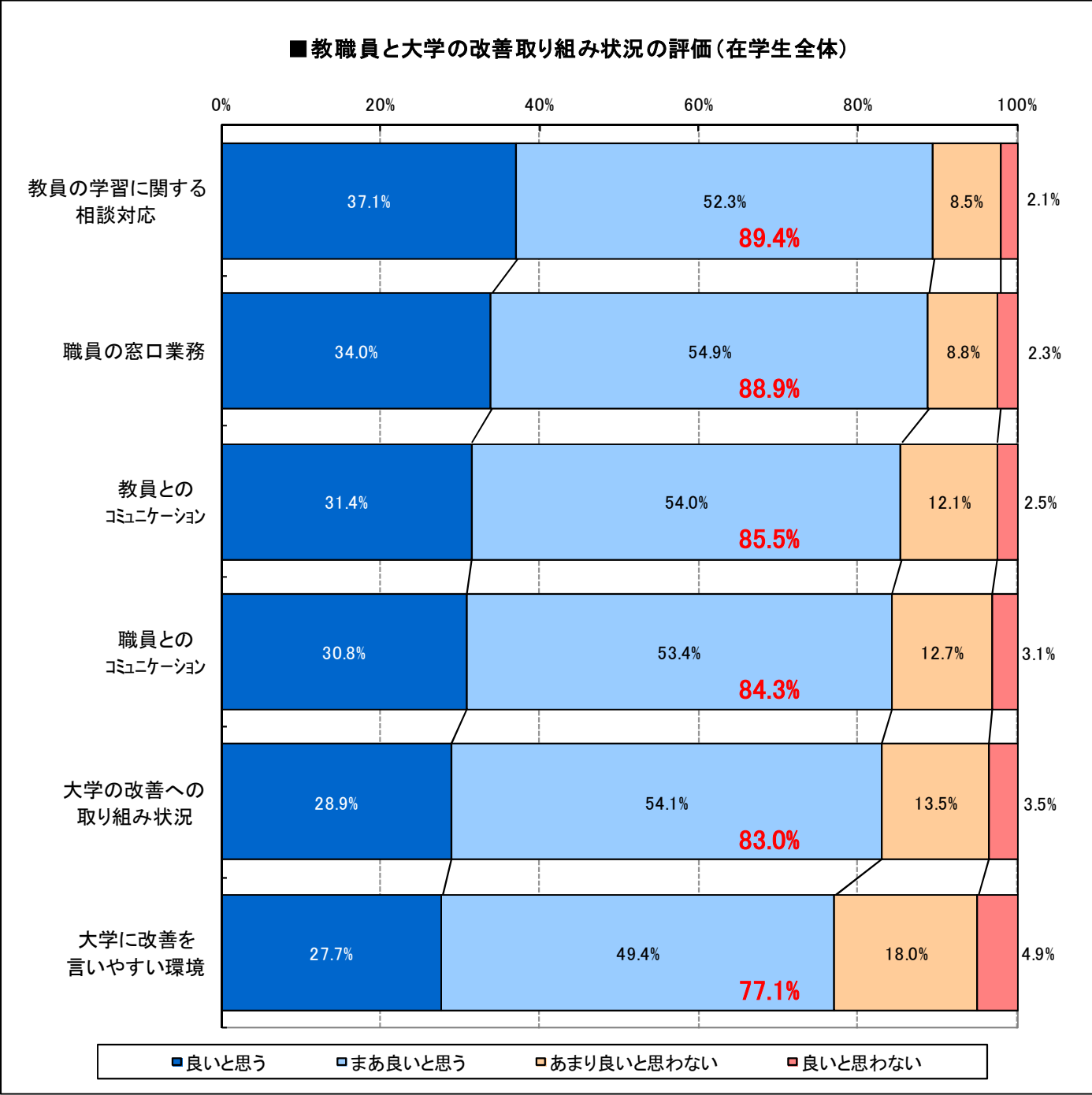
■学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

- 学生サポート・支援制度の利用経験者の割合と内容評価を同じグラフにまとめて、関係性を見ている。赤い実線は利用経験者の割合で、グラフの左側の数値軸に対応しており、青い破線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- 利用経験者の割合を見ると、「eシラバス」と「学習支援計画書」の高さが目立っており、この2項目は満足度も高かった。
- 一方、「海外研修・留学」「基礎英語教育センター」は利用率の低さが目立っていたが、利用者からの評価は高かった。そして、「キャンパスノート」と「学生心得(CAMPUS DIARY)」の利用率は同程度で少なくはないが、評価では低さが目立っていた。



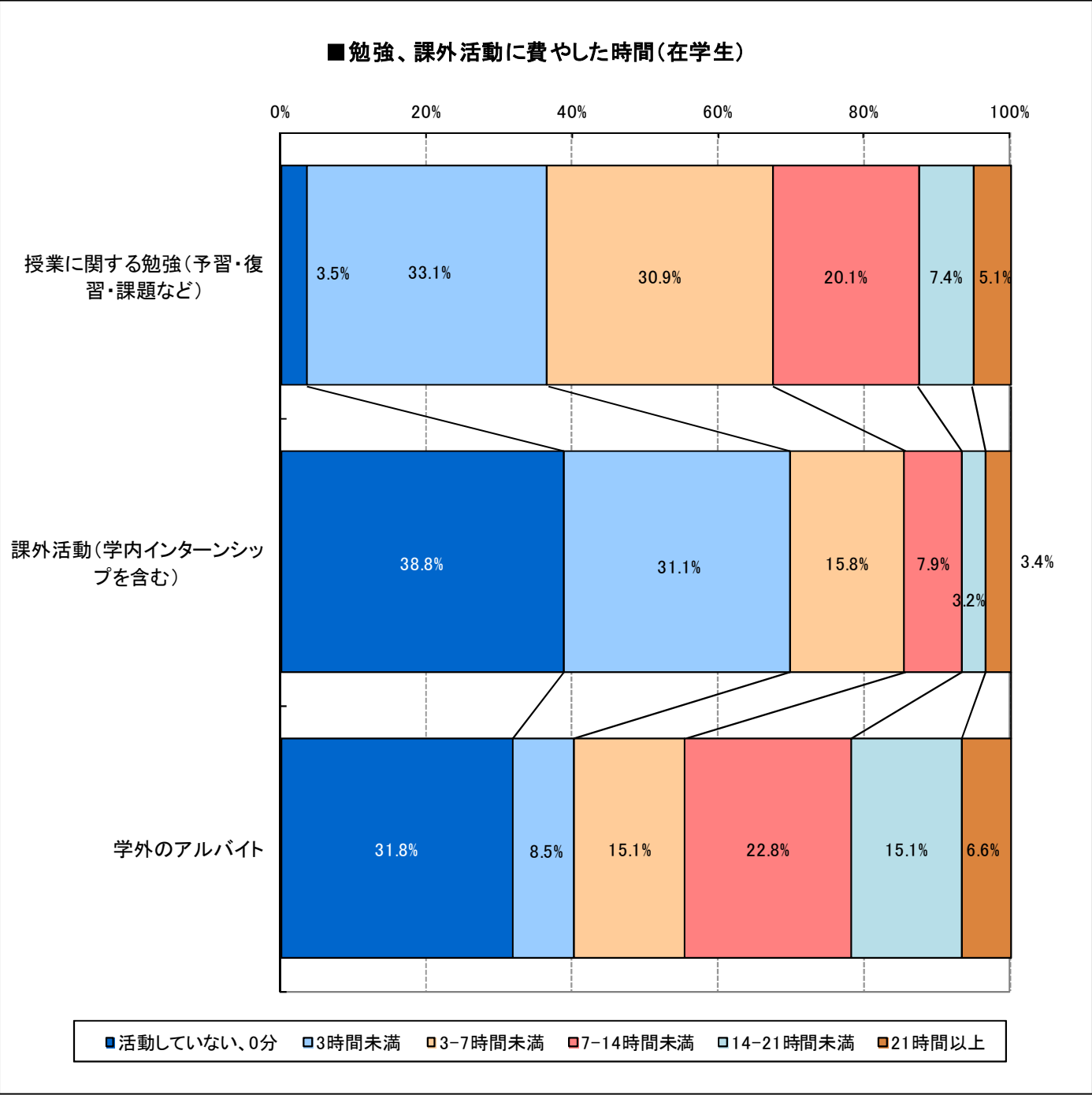
■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

- 教職員と大学の改善取り組み状況で最も評価が高かったのは「教員の学習に関する相談対応」の89.4%であり、「職員の窓口業務」が88.9%、「教員とのコミュニケーション」が85.5%で続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「大学に改善を言いやすい環境」の77.1%であった。



■勉強、課外活動に費やした時間

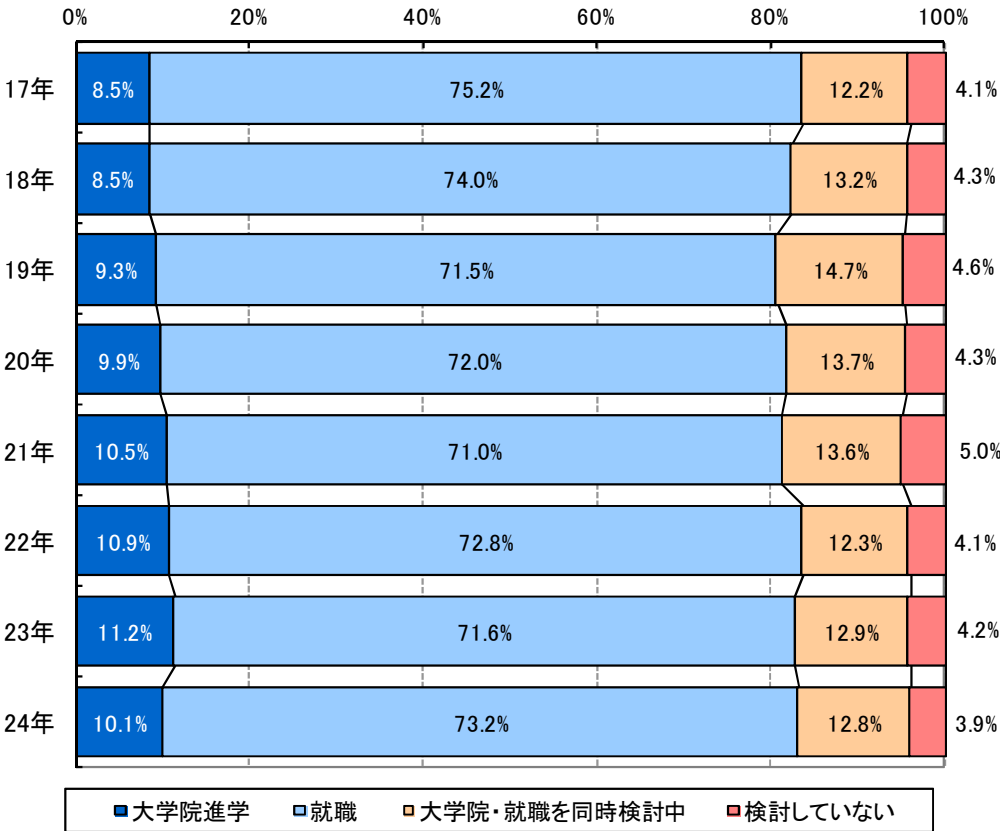
- 勉強、課外活動に費やした時間は、「普段の1週間の生活の中で費やした時間(1週間の合計)はどの程度でしょうか?」という質問文で、3つの分野に関して聞いている。
- 「授業に関する勉強(予習・復習・課題など)」に関しては、「活動していない、0分」が3.5%、「3時間未満」が33.1%、「3-7時間未満」が30.9%、「7-14時間未満」が20.1%、「14-21時間未満」が7.4%、「21時間以上」が5.1%となっており、「1日に1時間以上(後半3つの選択肢の合計)」は32.6%であった。
- 「課外活動(学内インターンシップを含む)」では、「活動していない、0分」が38.8%と非常に多かった。そして、「3時間未満」が31.1%、「3-7時間未満」が15.8%と短い時間帯が多く、「1日に1時間以上」の合計は14.5%であった。
- 「学外のアルバイト」も「活動していない、0分」が31.8%と多く、学生の1/3がアルバイト自体をしていないようであった。一方で「1日に1時間以上」の合計も44.5%と多く、アルバイトをしている学生は多くの時間を費やしているようであった。



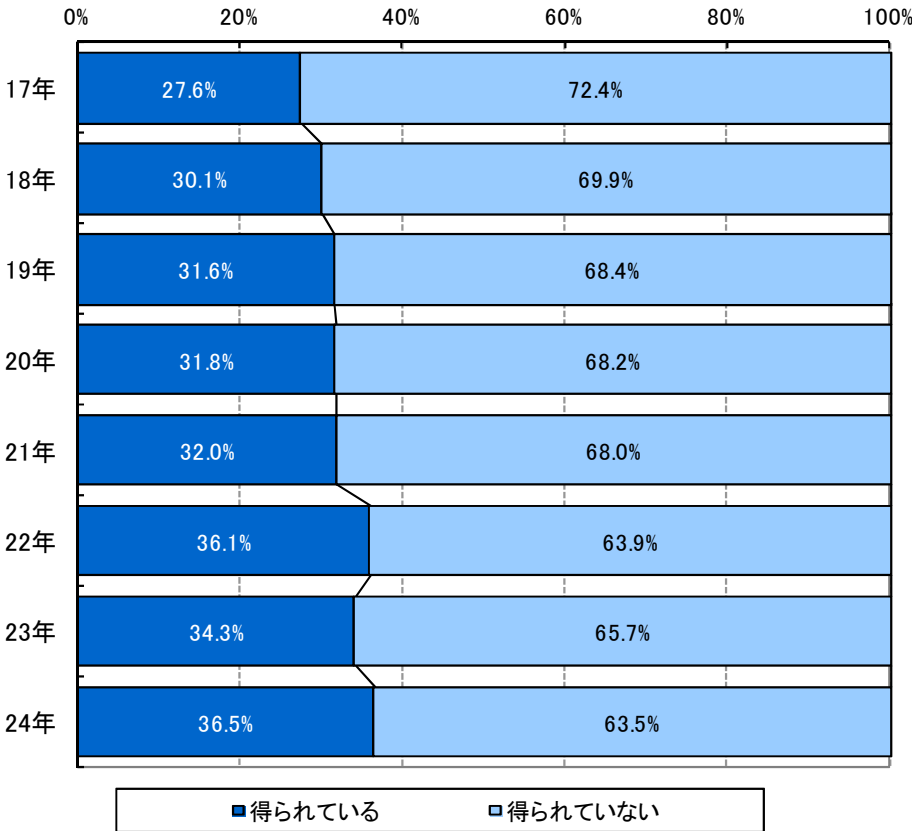
■ 大学院進学・就職意向、情報の入手状況

- 「大学院進学・就職意向」は「就職」が73.2%、「大学院・就職を同時検討中」が12.8%、「大学院進学」が10.1%、「検討していない」が3.9%であり、今回は「大学院進学」の増加傾向が止まり、「就職」が18年以降で最も高くなっていた。
- 「大学院進学の情報は何処から得られていますか？」では、「得られている」が36.5%、「得られていない」が63.5%であり、「得られている」は過去最高となっていた。

■ 大学院進学・就職意向 年度別比較(新入生・在学生)

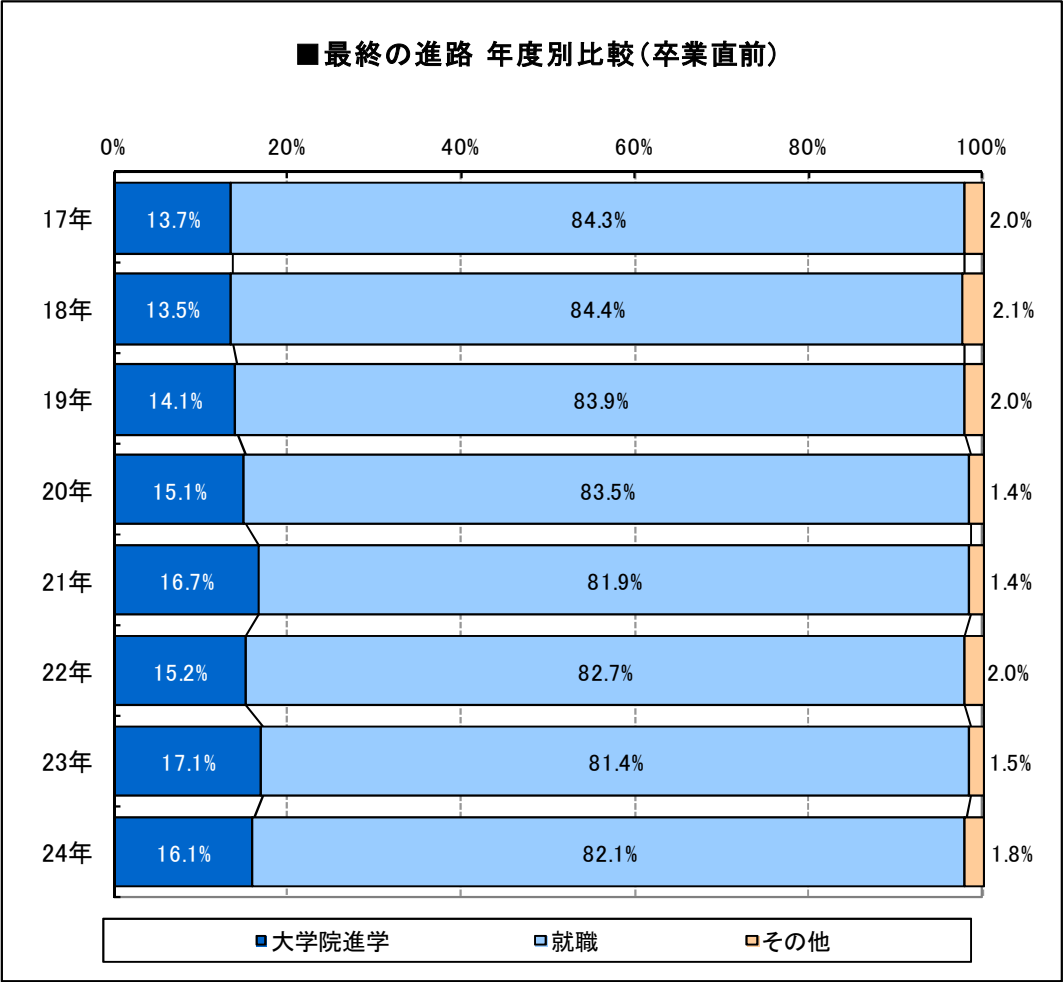


■ 大学院進学の情報入手状況 年度別比較(在学生)



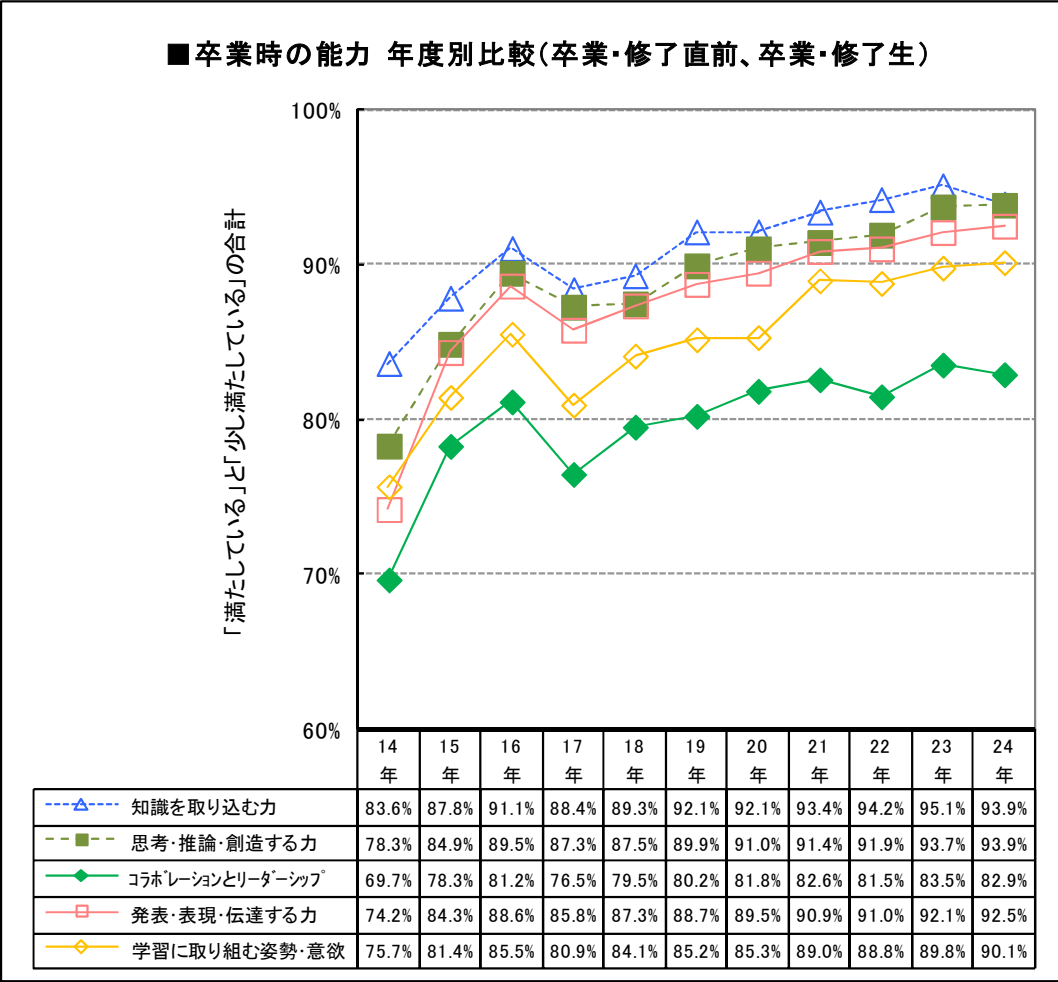
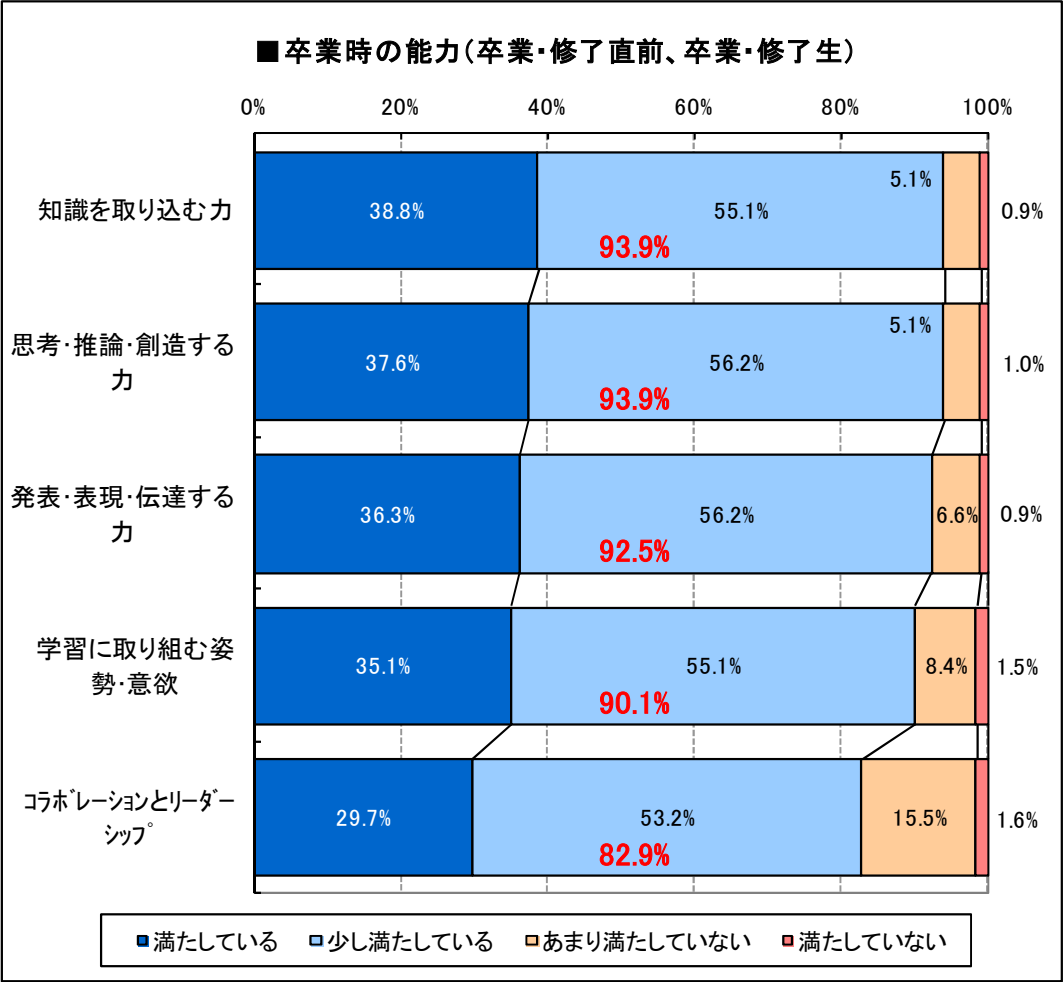
■最終の進路

- 「卒業直前」の学生には「最終の進路」を聞いているが、最も多かったのは「就職」の82.1%であり、「大学院進学」が16.1%、「その他」が1.8%となっていた。
- 前回、「大学院進学」が過去最高となっていたが、今回は1.0ポイントとわずかに低下していた。



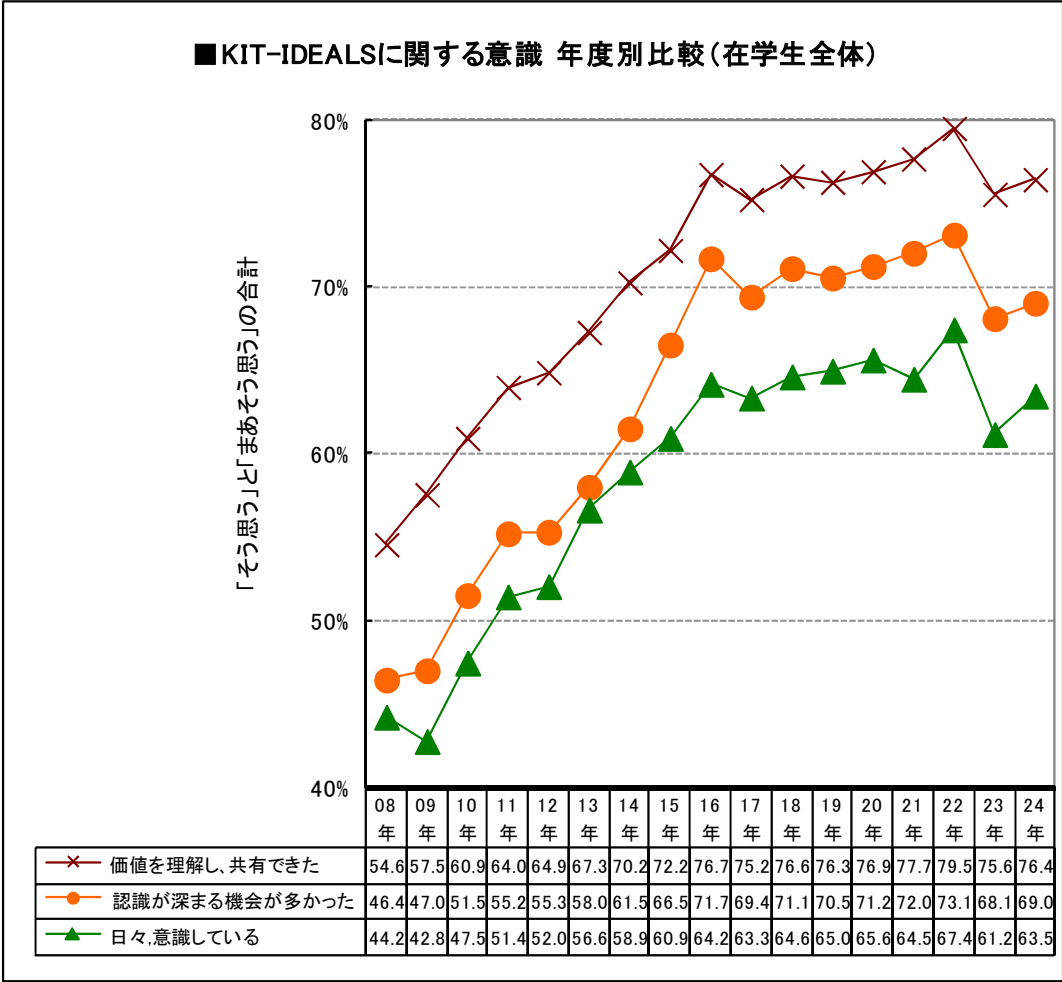
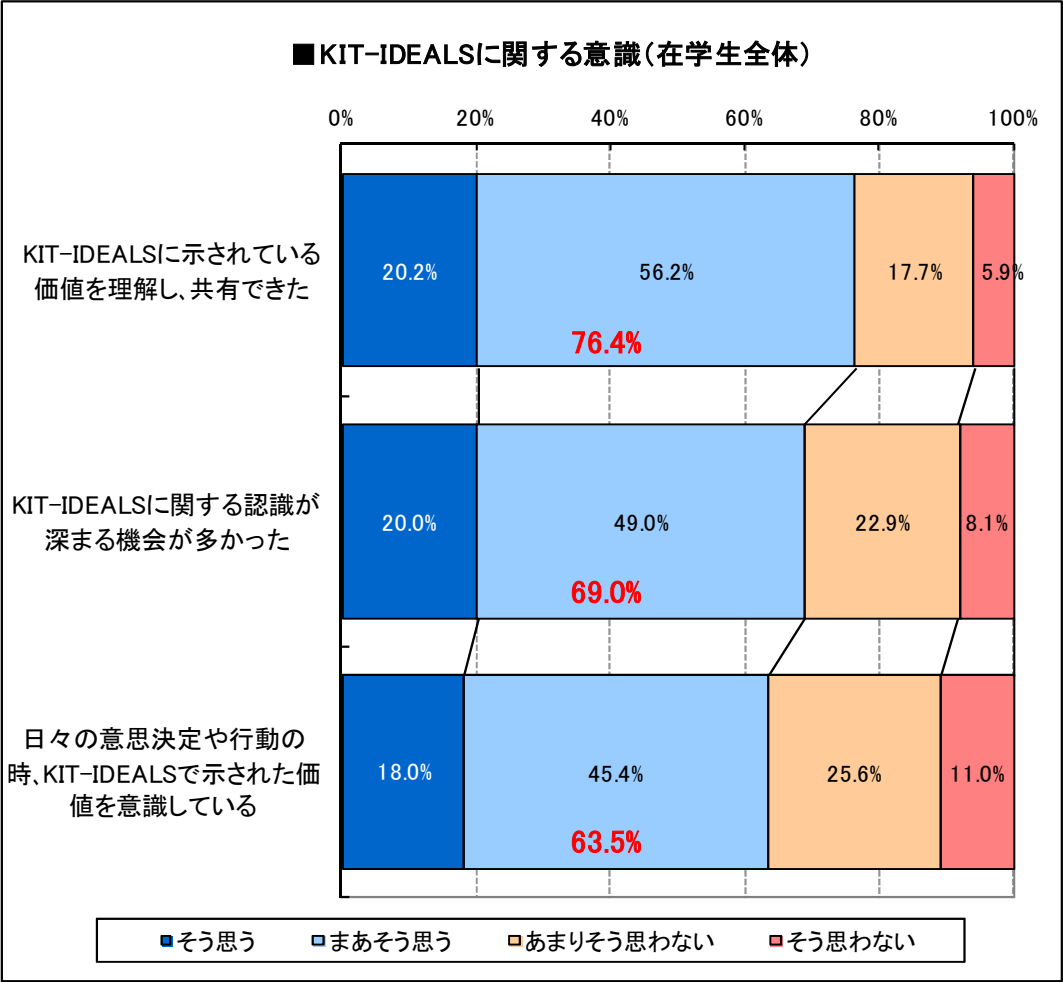
■卒業時の能力 年度別比較

- 「卒業時の能力」は「卒業・修了直前」「卒業・修了生」の学生に自己評価を聞いているが、肯定的な意見が最も多かったのは、「知識を取り込む力」と「思考・推論・創造する力」の93.9%であり、「発表・表現・伝達する力」が92.5%で続いていた。一方、最も少なかったのは「コラボレーションとリーダーシップ」の82.9%であった。
- 年度別比較を見ると、全体的にゆるやかな右肩上がりが続いており、「思考・推論・創造する力」「発表・表現・伝達する力」「学習に取り組む姿勢・意欲」は過去最高となっていた。



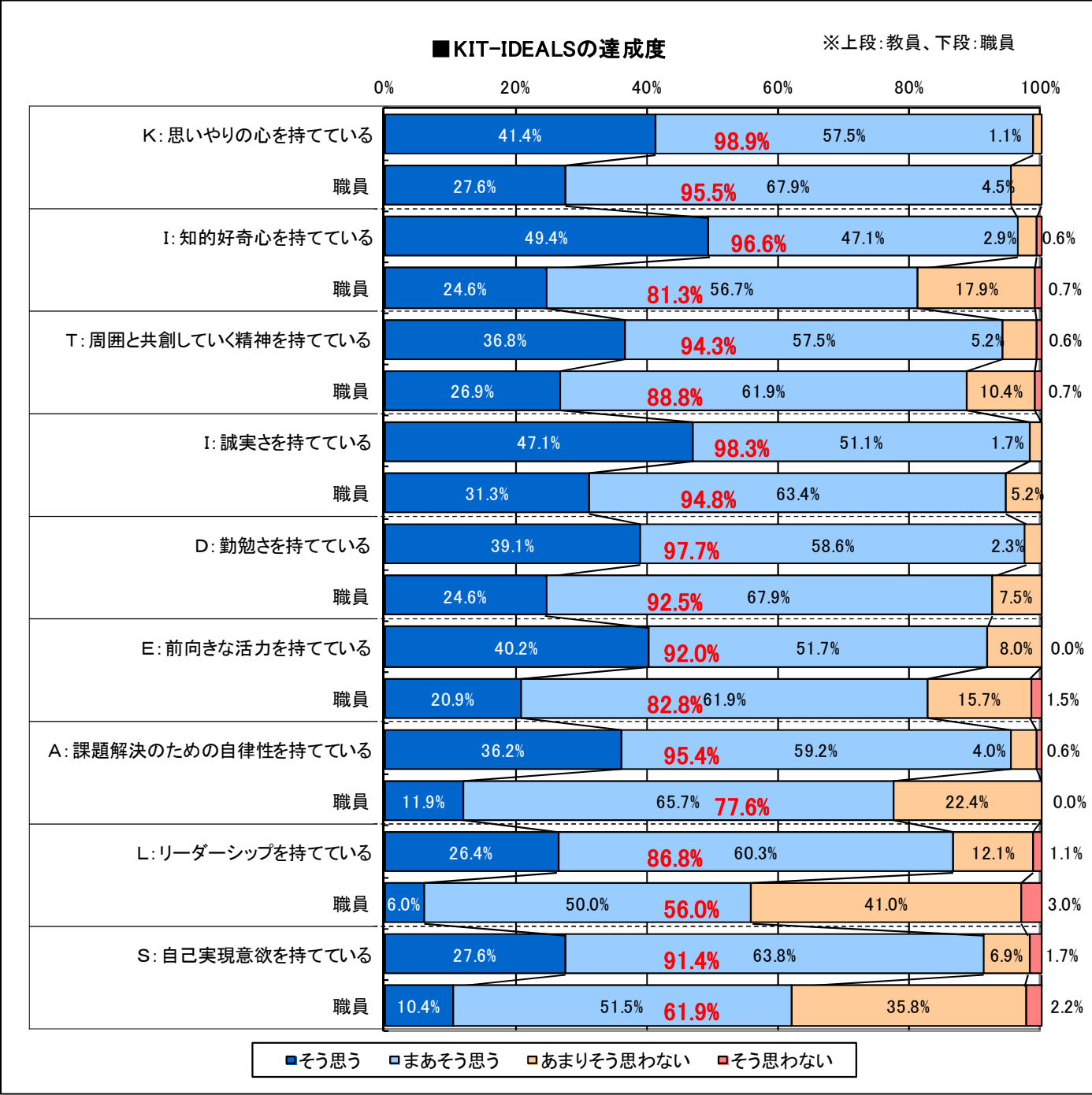
■KIT-IDEALSに関する意識、年度別比較

- KIT-IDEALSに関する質問の肯定的な意見は、「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」が76.4%であり、「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」が69.0%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」が63.5%となっていた。
- 年度別比較を見ると、22年までは例外はあるものの肯定的な意見が増加する傾向が続いており、22年には3項目ともに過去最高となっていたが、前回は3項目ともに大きく低下し、今回はわずかに向上となっていた。



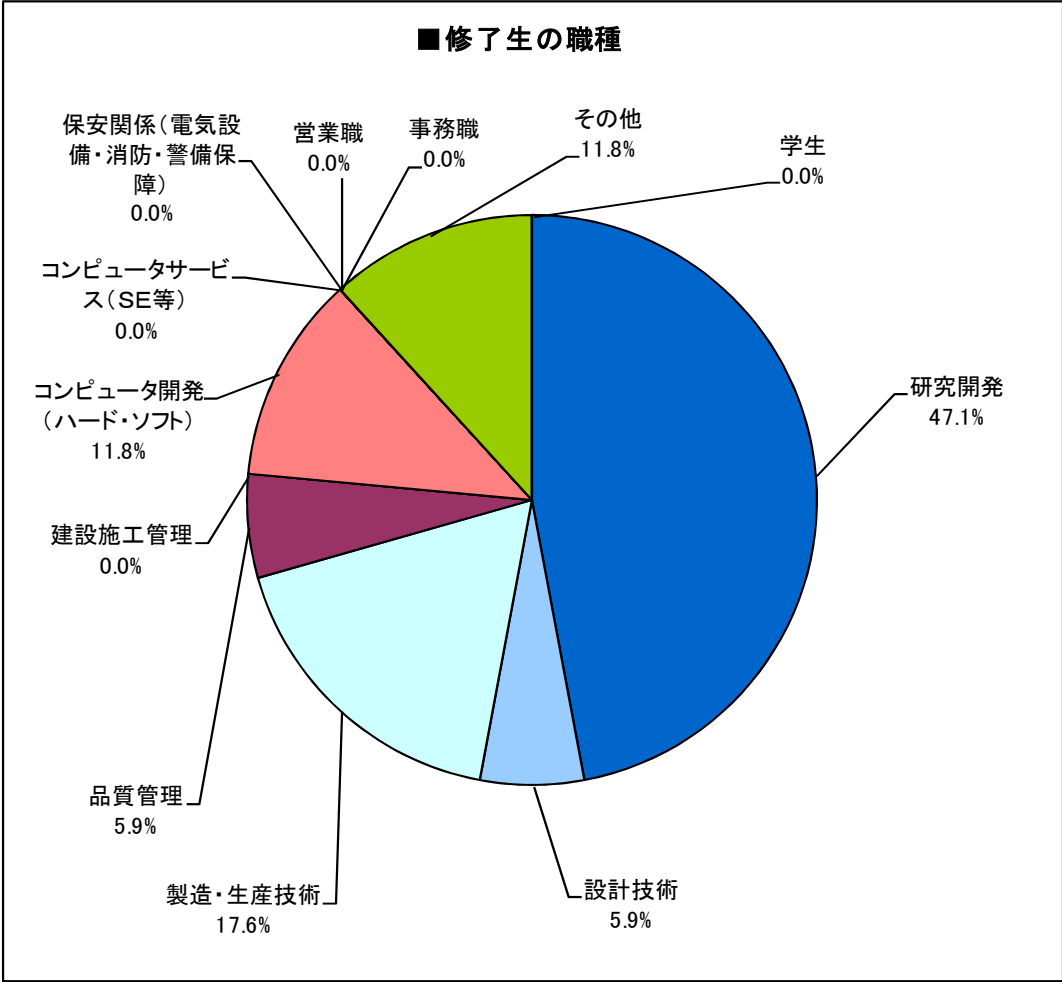
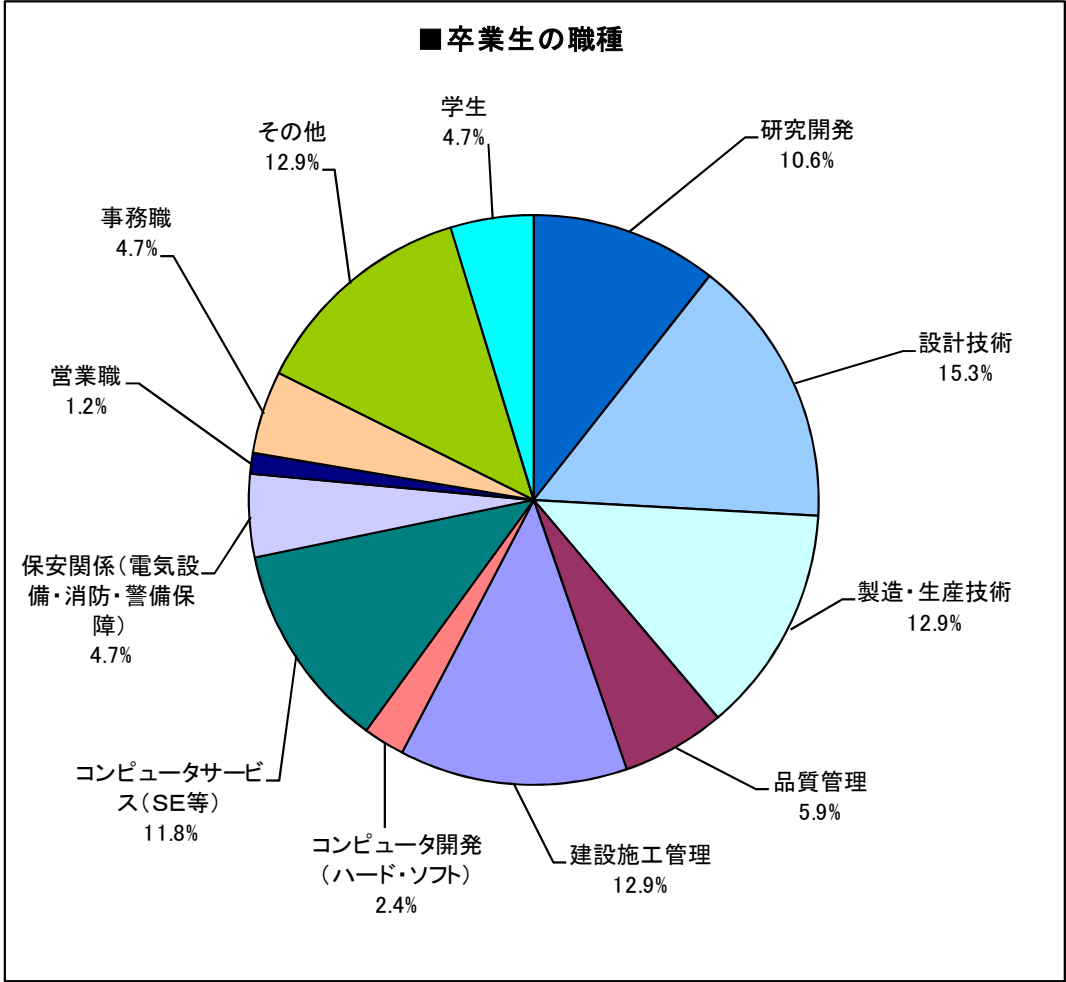
■教職員のKIT-IDEALSの達成度

- 「教員」と「職員」へのKIT-IDEALSに関する質問は、9項目すべてで「教員」の方が達成度が高かった。
- 「教員」で達成度が最も高かったのは、「K:思いやりの心を持っている」の98.9%であり、「I:誠実さを持っている」が98.3%、「D:勤勉さを持っている」が97.7%で続いていた。一方、最も低かったのは「L:リーダーシップを持っている」の86.8%であり、唯一、9割を下回っていた。
- 「職員」で達成度が最も高かったのは、「K:思いやりの心を持っている」の95.5%であり、「I:誠実さを持っている」が94.8%、「D:勤勉さを持っている」が92.5%で続いていた。一方、最も低かったのは「L:リーダーシップを持っている」の56.0%であり、「S:自己実現意欲を持っている」の61.9%とともに低さが目立っていた。



■現在の職種

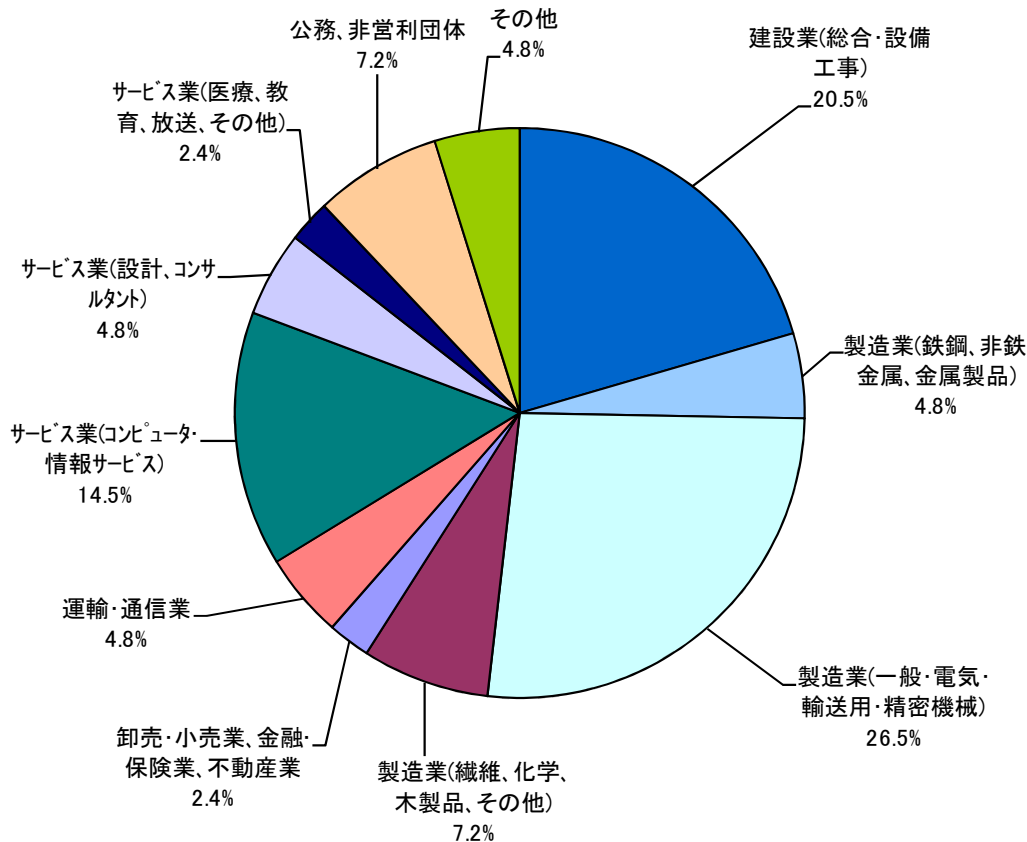
- 卒業生の職種では「設計技術」が15.3%で最も多く、次いで、「製造・生産技術」と「建設施工管理」が12.9%、「コンピュータサービス(SE等)」が11.8%で続いていた。
- 修了生の職種では「研究開発」が47.1%と約半数を占めており、「製造・生産技術」が17.6%、「コンピュータ開発(ハード・ソフト)」が11.8%で続いていた。



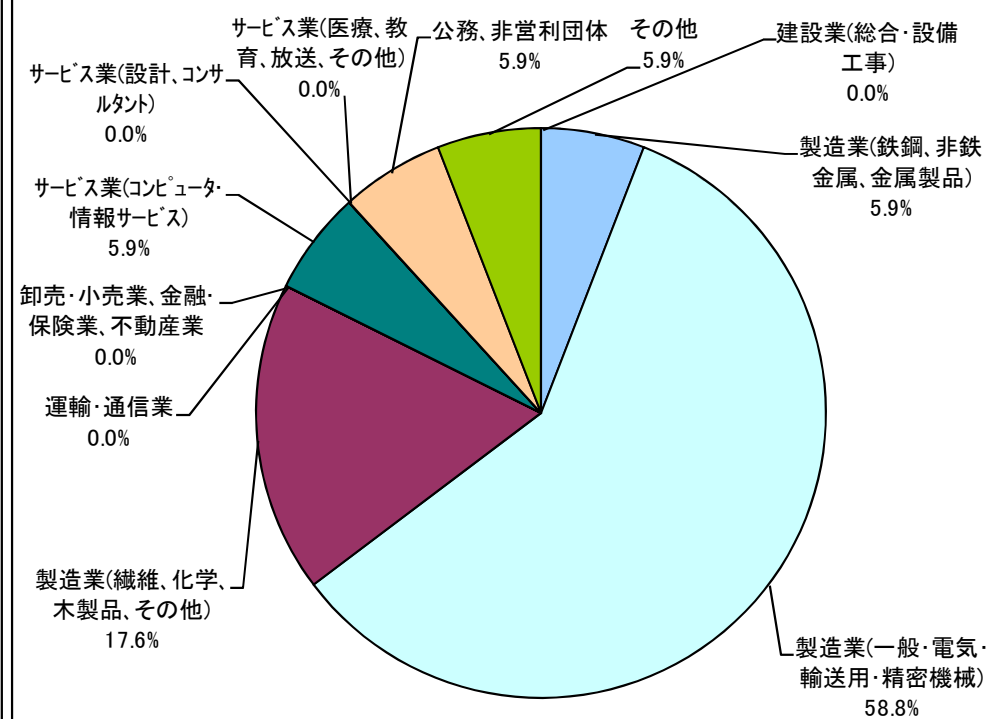
■現在の会社の業種

- 卒業生の会社の業種で最も多かったのは「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」の26.5%であり、「建設業(総合・設備工事)」が20.5%、「サービス業(コンピュータ・情報サービス)」が14.5%で続いていた。
- 修了生の業種では「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が58.8%と6割近くを占めており、「製造業(繊維、化学、木製品、その他)」が17.6%で続いていた。

■卒業生の会社の業種

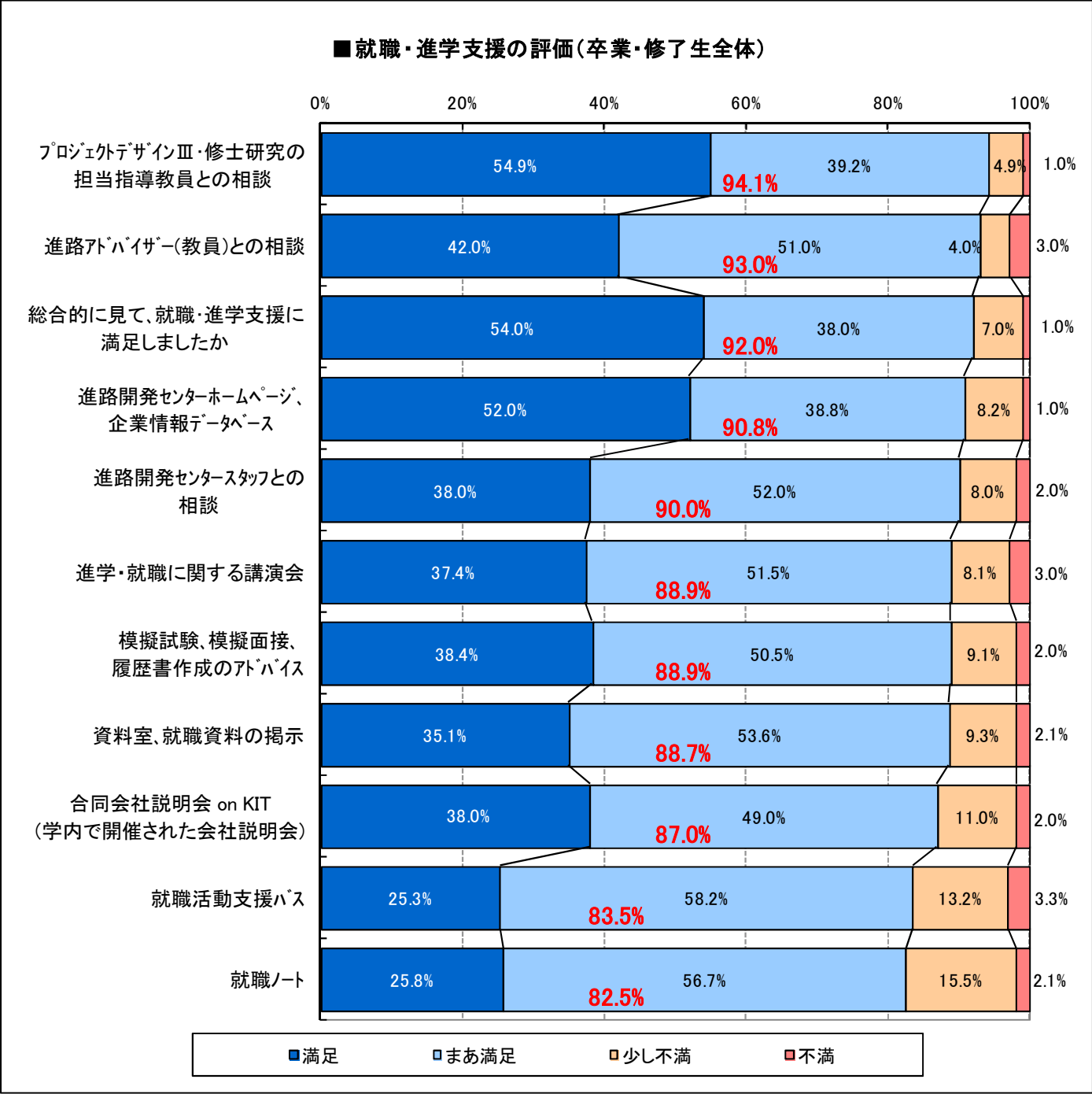


■修了生の会社の業種



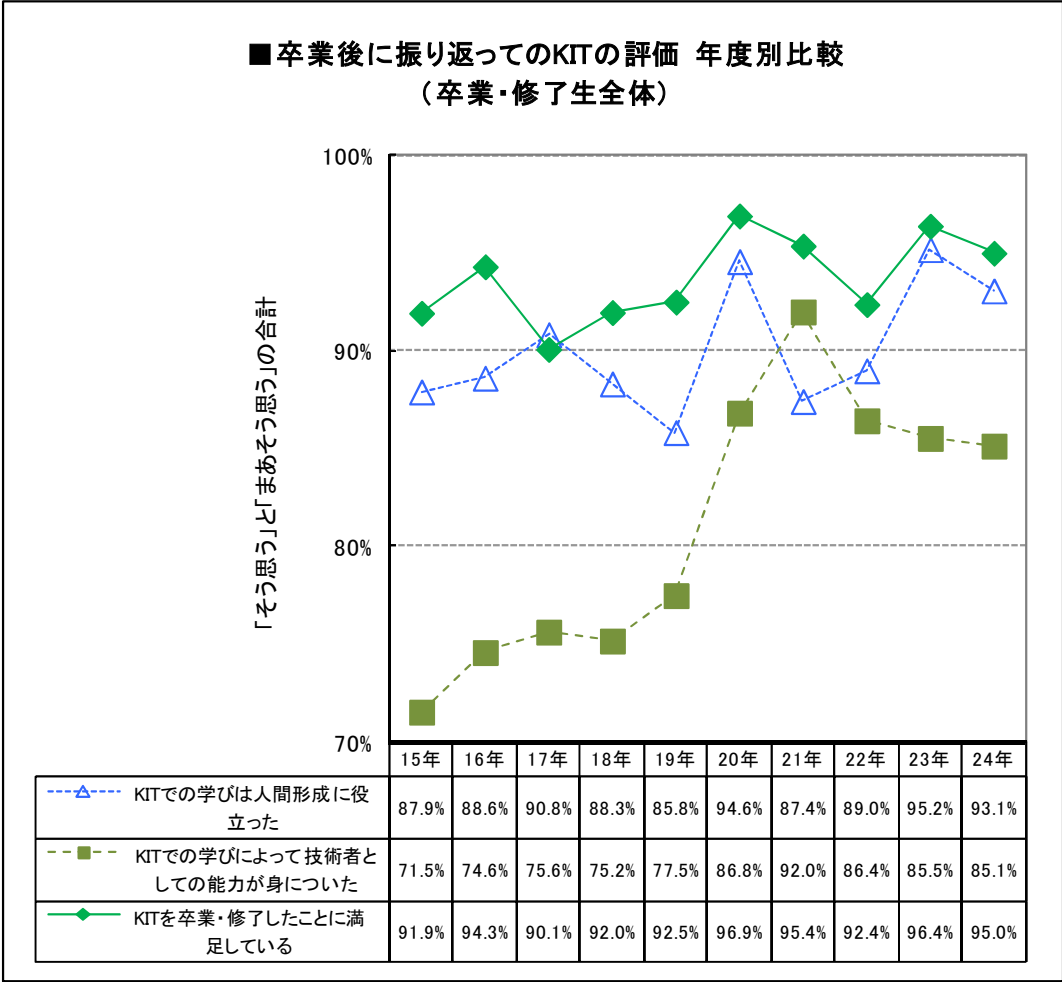
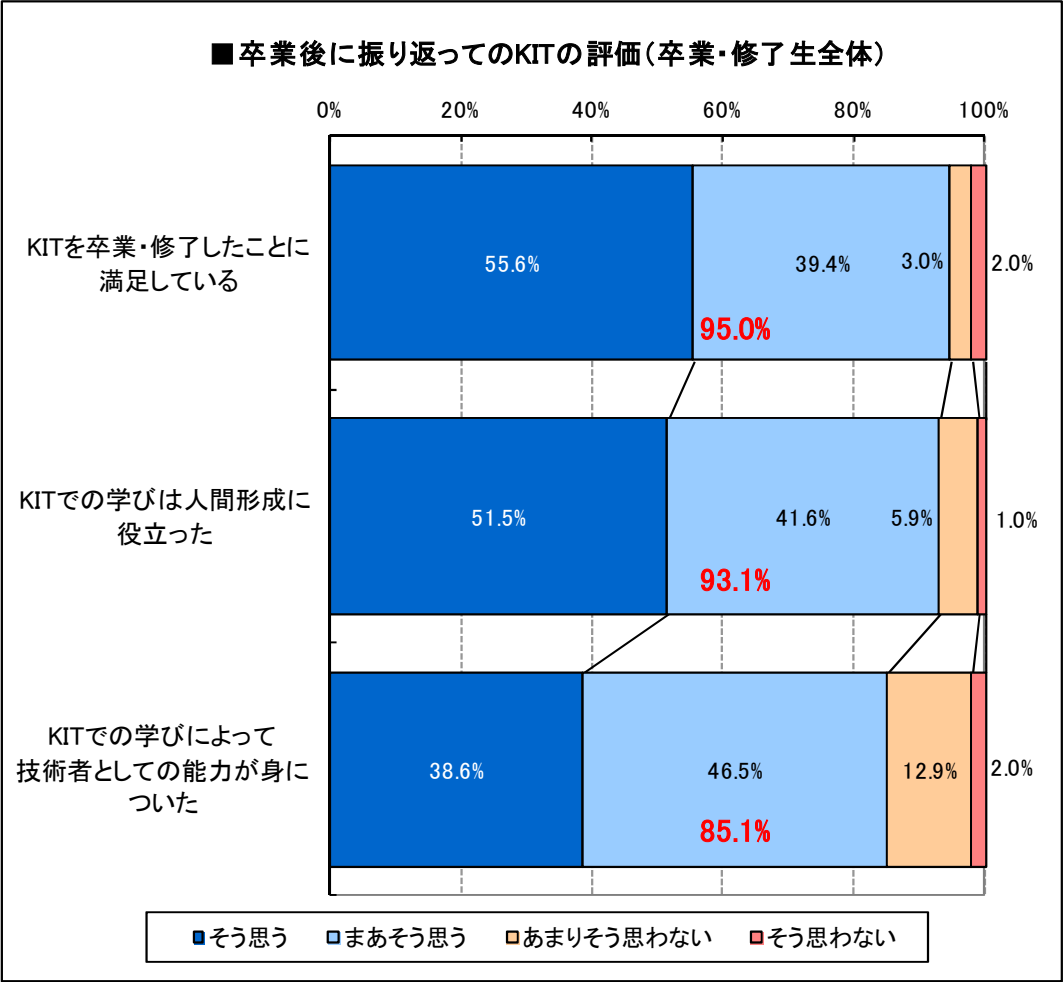
■就職・進学支援の評価

- 「卒業・修了生」の就職・進学支援の評価として、「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」を見ると、「満足」が54.0%、「まあ満足」が38.0%となっており、合わせると満足度は92.0%と、非常に高かった。
- 上記以外の評価を見ると、満足度が最も高かったのは「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」の94.1%であった。次いで、「進路アドバイザー(教員)との相談」が93.0%、「進路開発センターホームページ、企業情報データベース」が90.8%で続いていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「就職ノート」の82.5%であり、「就職活動支援バス」が83.5%で続いていたが、これらも決して低いものではなかった。



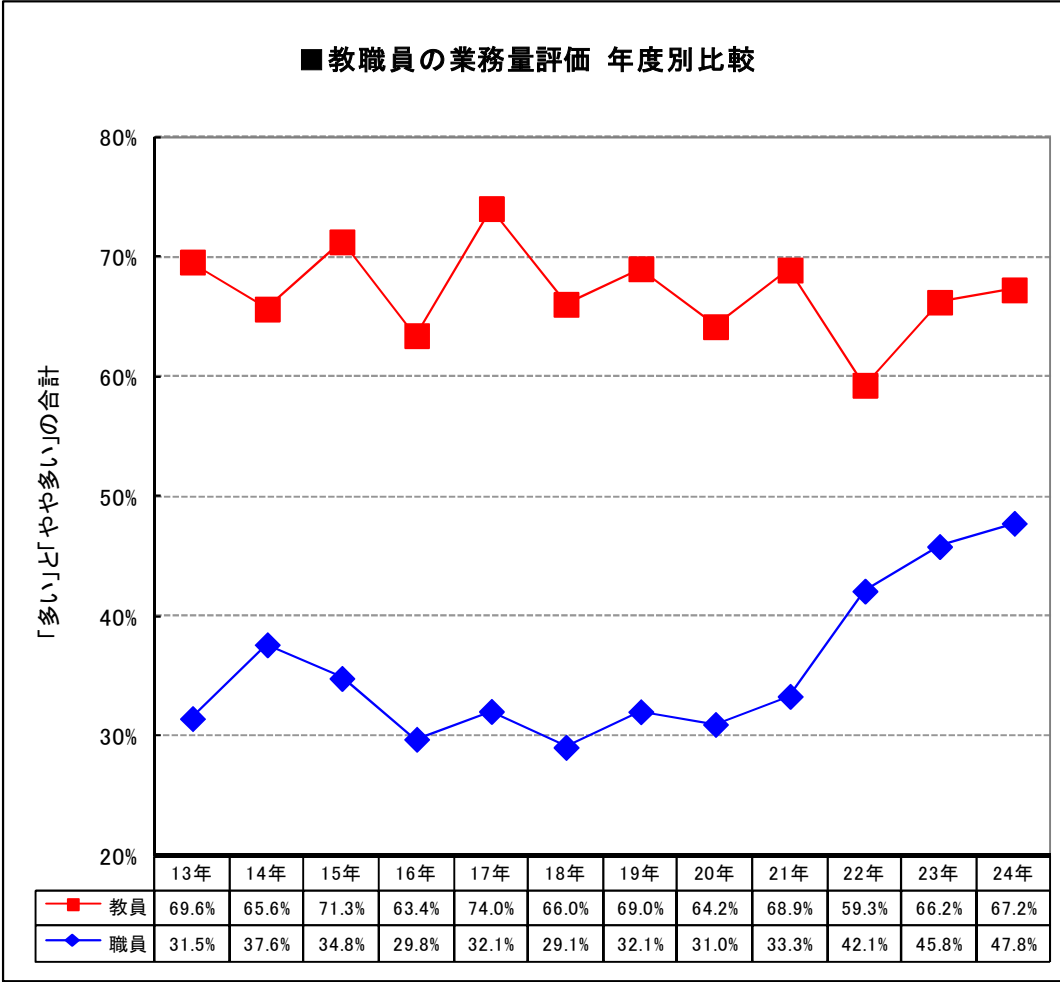
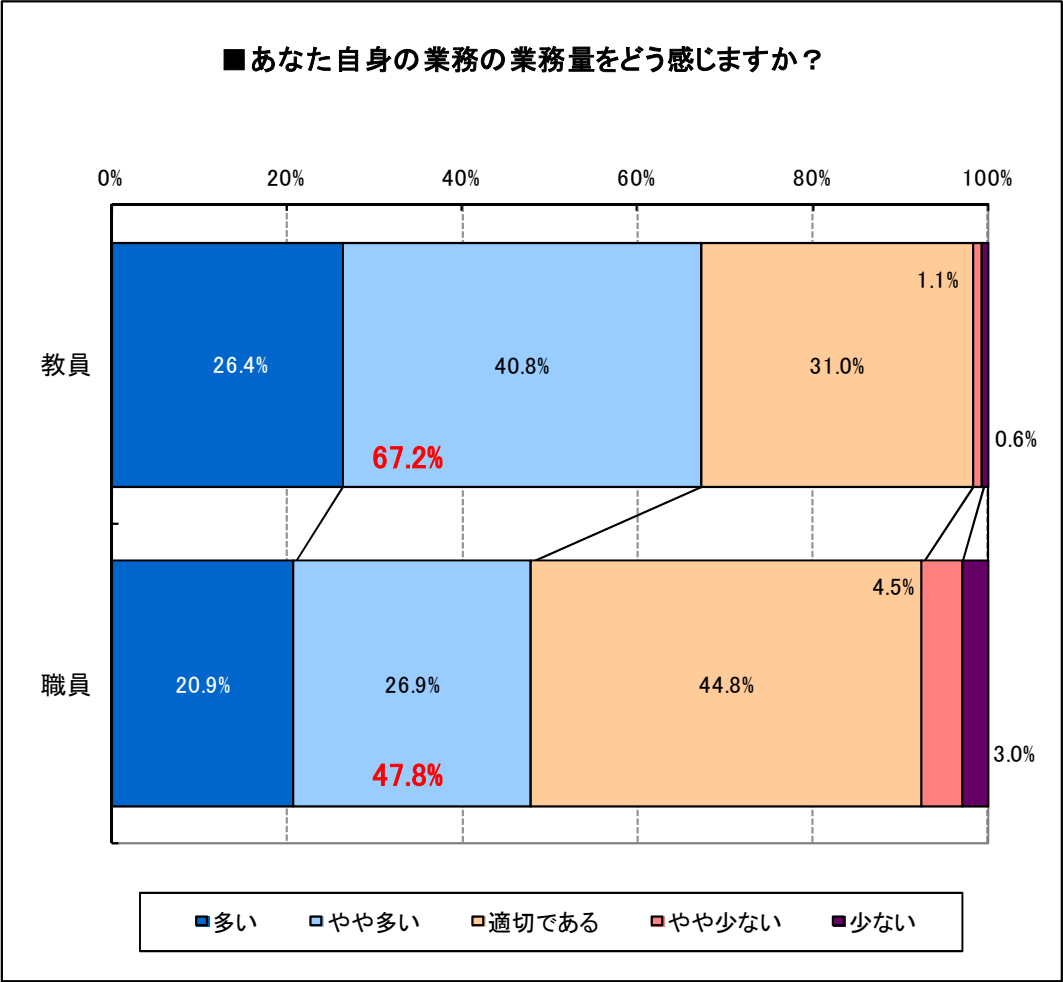
■卒業後のKITの評価 年度別比較

- 卒業後に振り返ってのKITの評価は「卒業生」と「修了生」にのみ聞いている。
- 「KITを卒業・修了したことに満足している」では「そう思う」が55.6%、「まあそう思う」が39.4%であり、95.0%が満足という回答であった。そして、「KITでの学びは人間形成に役立った」は93.1%、「KITでの学びによって技術者としての能力が身についた」は85.1%が肯定的な意見であり、いずれも高い評価であった。
- 年度別の比較を見ると、3指標ともに前回を下回っていたが、「KITを卒業・修了したことに満足している」はマイナス1.5ポイントであり、「KITでの学びは人間形成に役立った」はマイナス2.1ポイント、「KITでの学びによって技術者としての能力が身についた」はマイナス0.4ポイントと、いずれもわずかな低下であった。



■自分自身の業務量

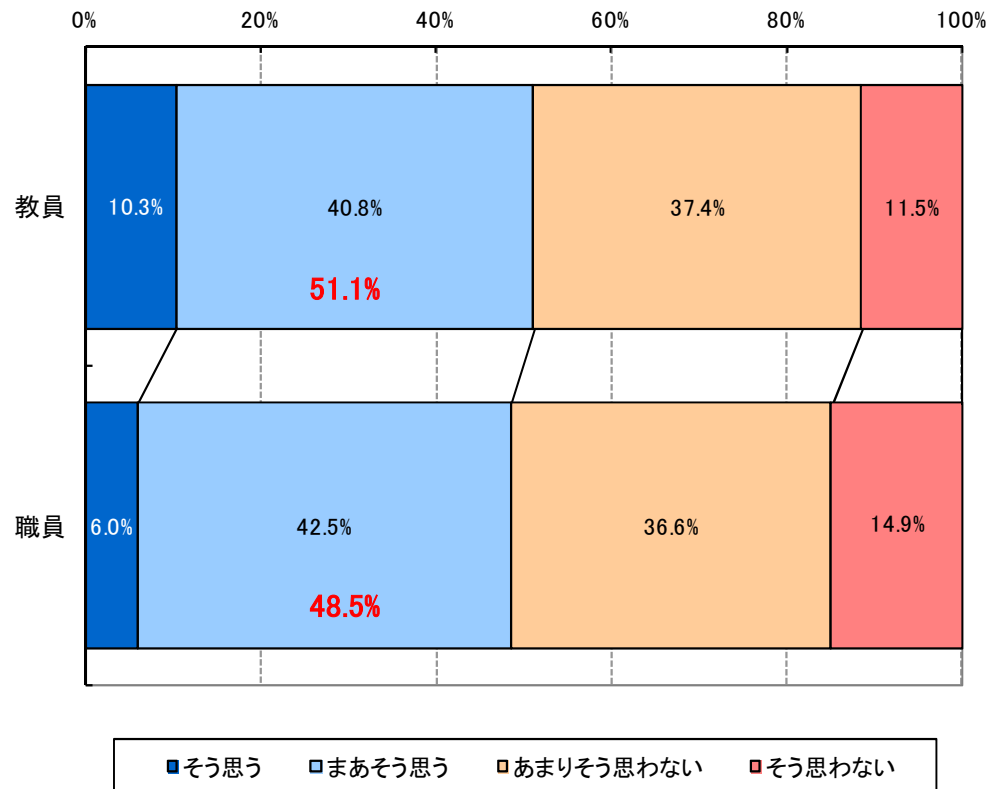
- 「あなた自身の業務量をどう感じますか？」に対して、「教員」では「多い」が26.4%、「やや多い」が40.8%であり、合わせると67.2%が業務量が多いと感じており、「適切である」は31.0%にとどまっていた。
- 「職員」では「多い」が20.9%、「やや多い」が26.9%であり、合わせると47.8%が業務量が多いと答えていた。そして、「適切である」は44.8%と半数に近かった。
- 業務量が多いという回答の年度別比較を見ると、「教員」は増減を繰り返していたが、前回から今回にかけてはわずかに増加していた。一方、「職員」はここ数年はゆるやかに増加する傾向が続いており、今回も2.0ポイント増加して過去最高となっていた。



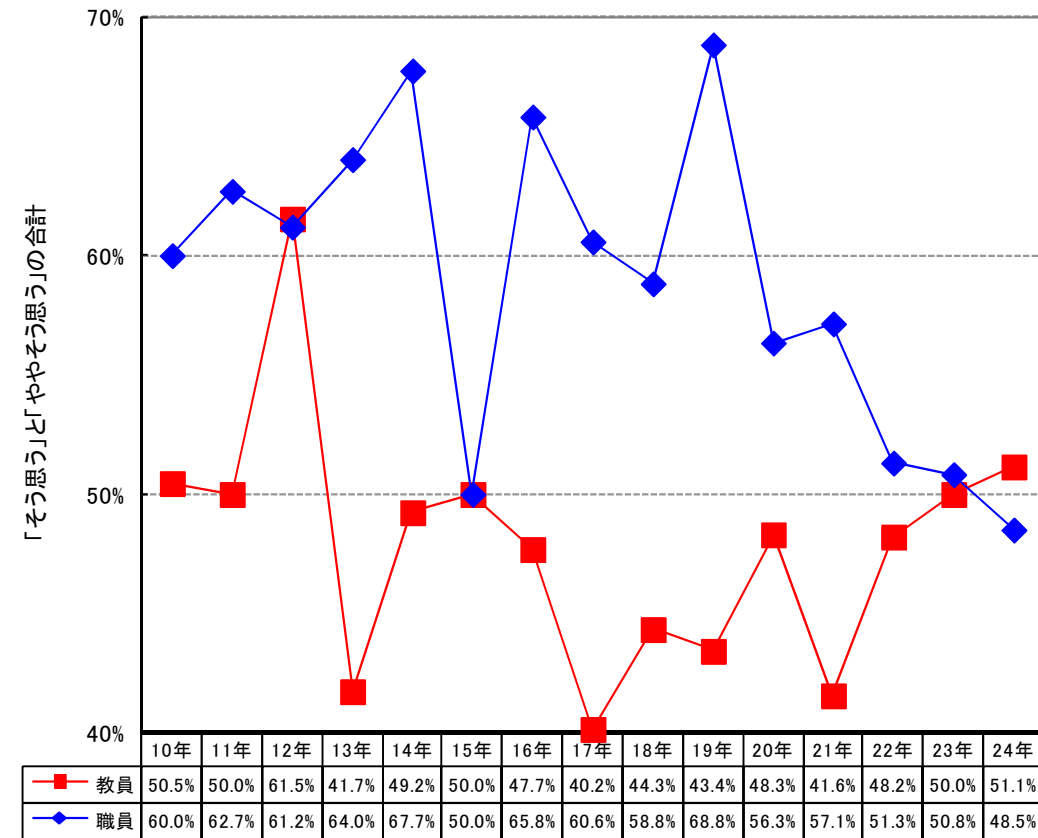
■自分自身の業務改善状況

- 「あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？」では、「教員」では「そう思う」が10.3%、「まあそう思う」が40.8%であり、合わせると51.1%と、半数が改善を感じていた。そして、「職員」では「そう思う」が6.0%、「まあそう思う」が42.5%であり、合わせると48.5%であった。
- 肯定的な意見の合計の年度別比較を見ると、わずかに例外はあるものの、調査開始から「職員」の方が高い傾向にあり、19年のように25.4ポイントという大きな差がついている年もあった。しかし、ここ数年は両者の差が縮まり、今回は「教員」の方が2.6ポイント多くなっており、これまでの関係性が逆転していた。

■あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？

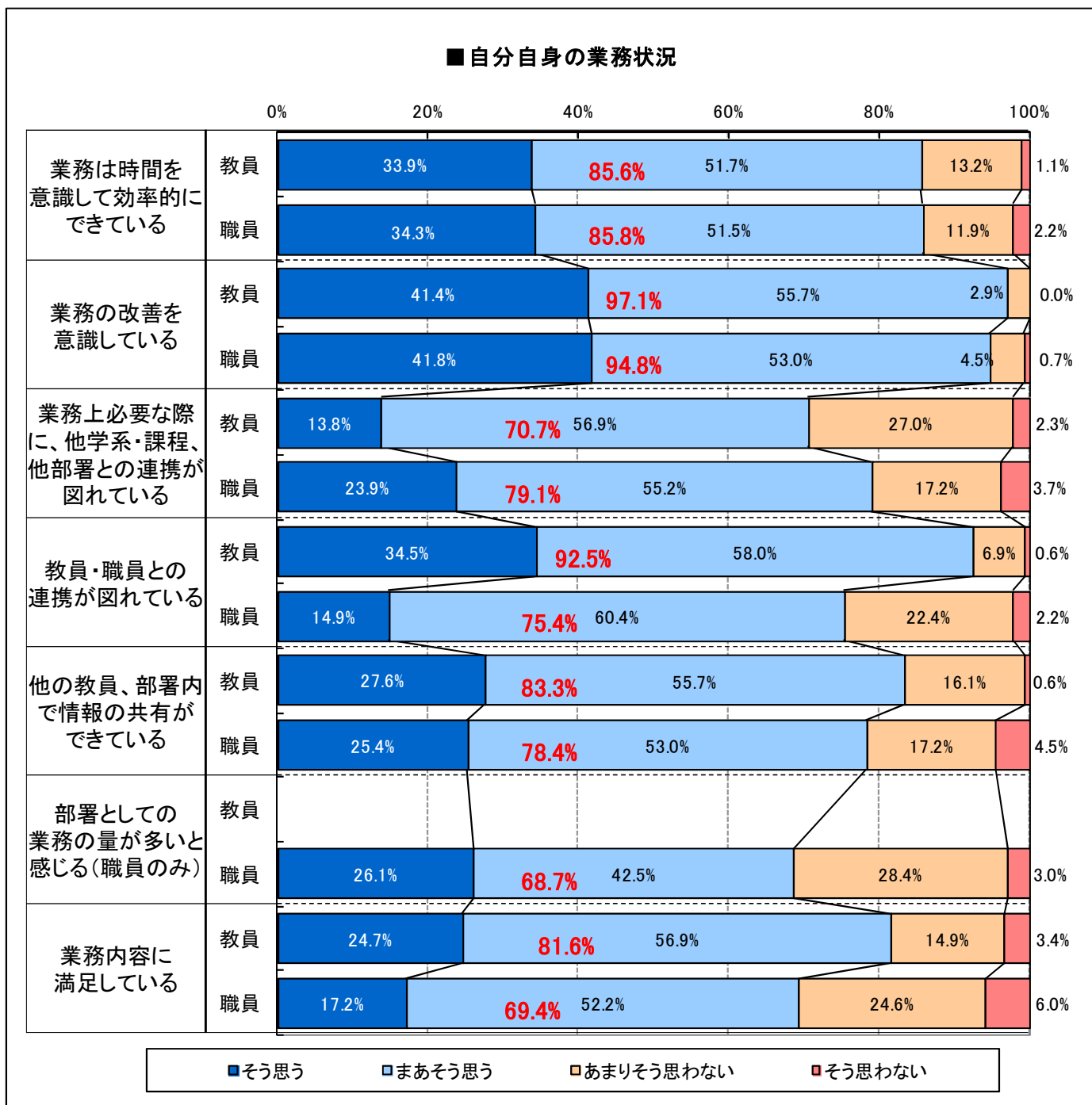


■業務の改善状況 年度別比較



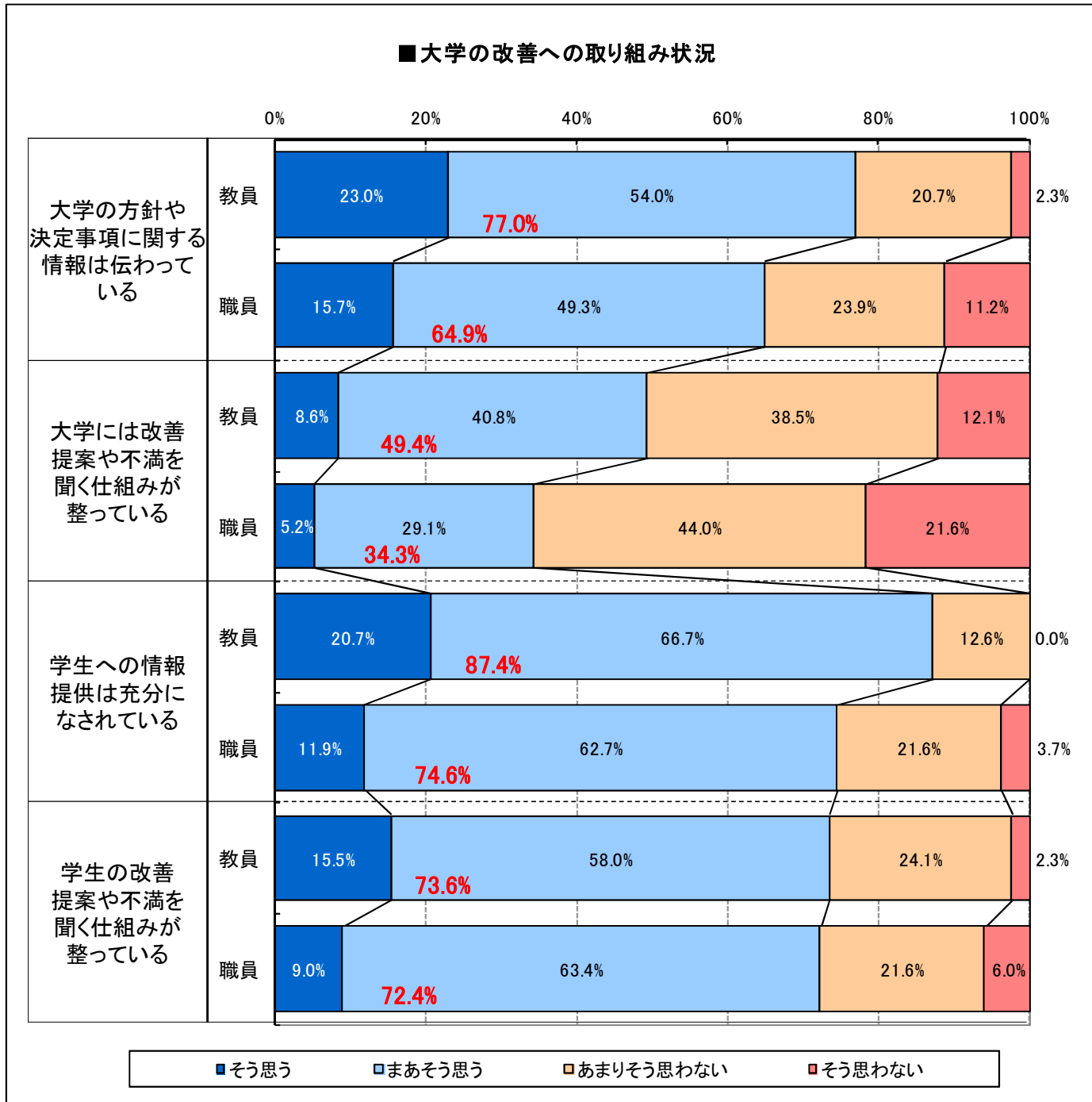
■自分自身の業務状況

- 自分自身の業務状況に関して、まず、「業務内容に満足している」を見ると、肯定的な意見は「教員」が81.6%、「職員」が69.4%であり、差は12.2ポイントと大きな差がついていた。
- 満足度以外の項目では、「教員」「職員」ともに「業務の改善を意識している」で肯定的な意見が多く、「教員」が97.1%、「職員」が94.8%となっていた。また、「業務は時間を意識して効率的にできている」も「教員」が85.6%、「職員」が85.8%と多く、これらの2項目に関しては、両者の意識が一致していた。
- 上記以外の項目では両者の意識に差が見られ、「教員・職員との連携が図れている」と「他の教員、部署内で情報の共有ができています」は「職員」の方が低かった。一方、「業務上必要な際に、他学系・課程、他部署との連携が図れている」は「教員」の方が低くなっていた。



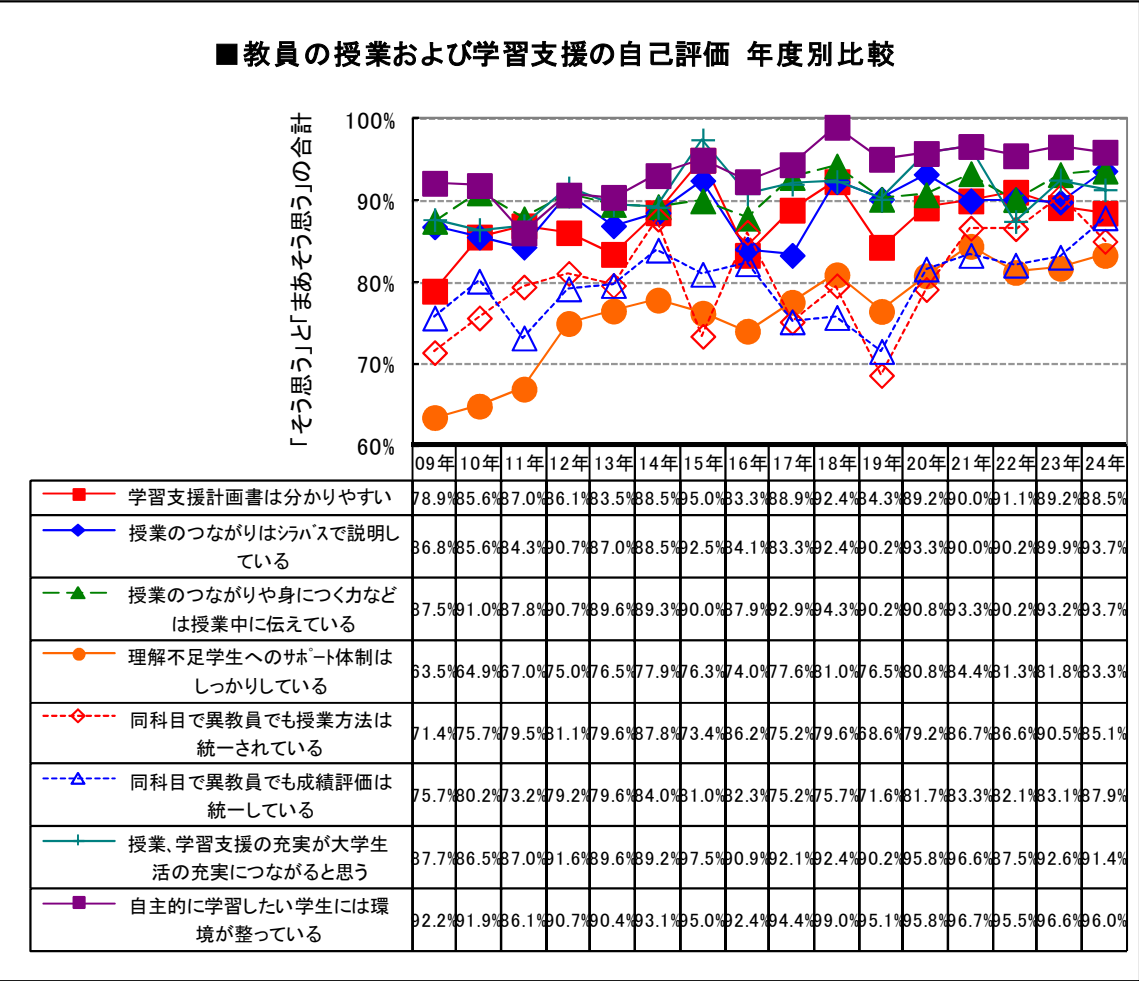
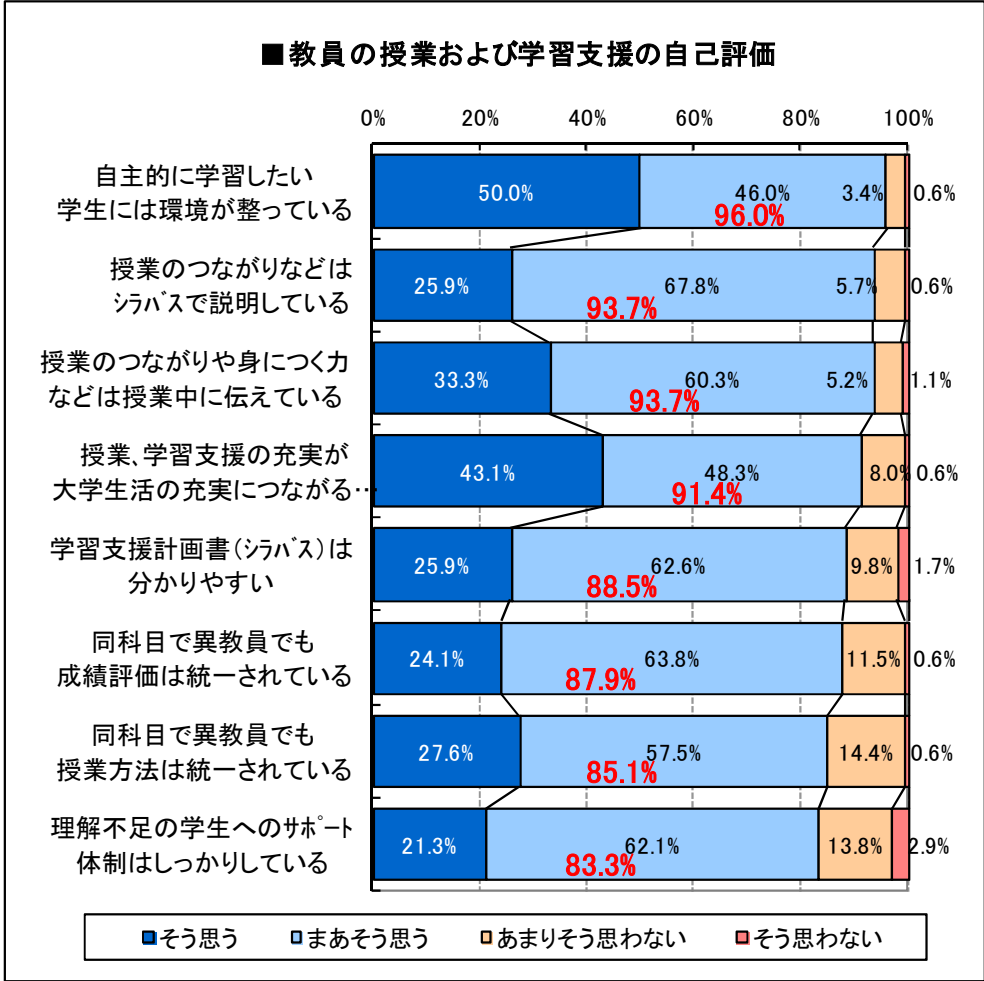
■大学の改善への取り組み状況

- 大学の改善への取り組み状況の評価は、すべての項目で「教員」の方が肯定的な意見が多かった。
- 「教員」と「職員」の差が最も大きかったのは「大学には改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」であり、肯定的な意見は「教員」が49.4%、「職員」が34.3%で、差は15.1ポイントであった。特に「職員」は「そう思わない」が21.6%と目立って多く、強い不満が感じられた。
- 一方、差が最も小さかったのは「学生の改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」であり、差は1.2ポイントとわずかであった。



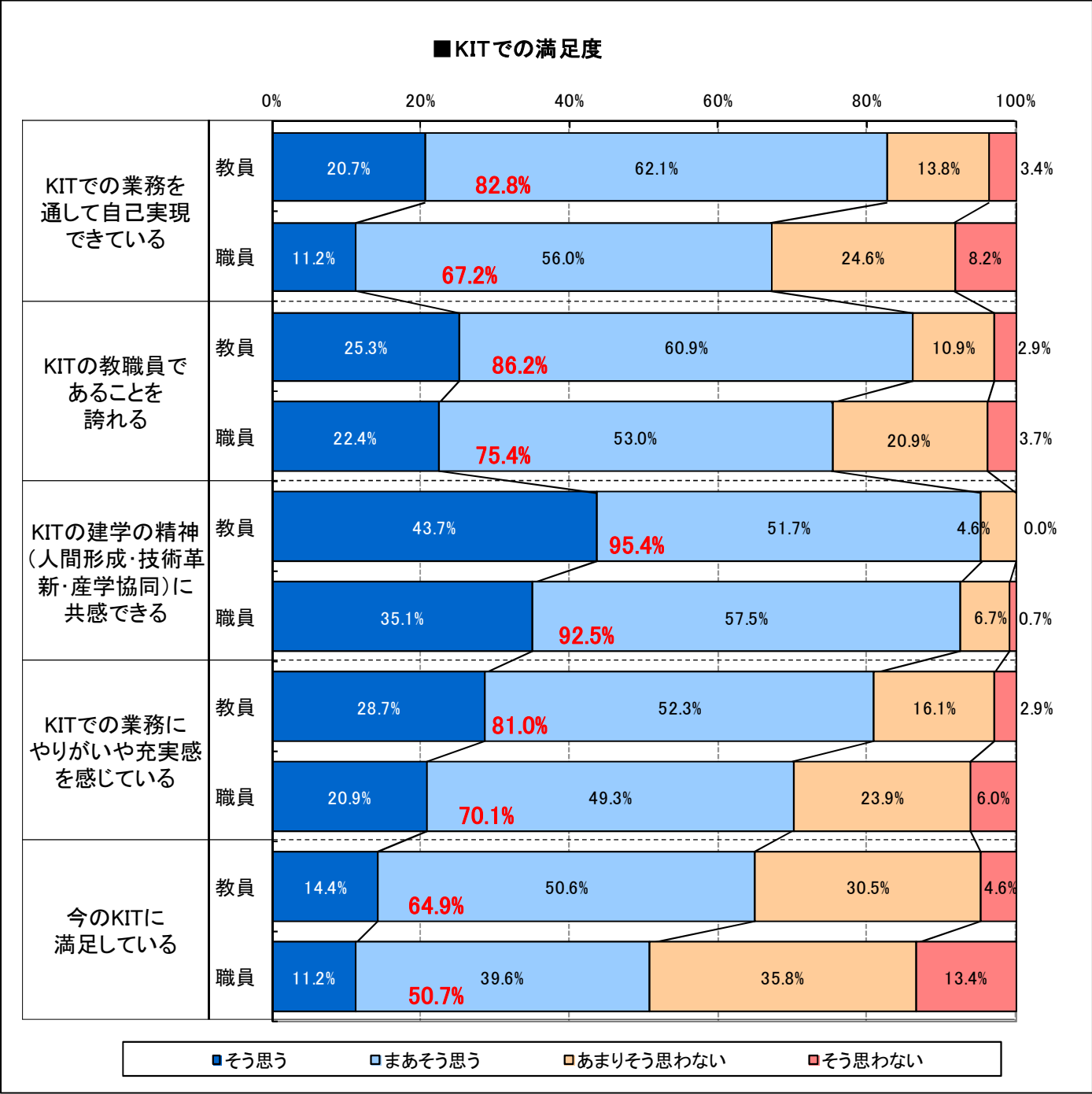
■教員の授業および学習支援の自己評価

- 教員のみに授業および学習支援の自己評価を聞いているが、肯定的な意見が最も多かったのは「自主的に学習したい学生には環境が整っている」の96.0%であった。次いで、「授業のつながりなどはシラバスで説明している」と「授業のつながりや身につく力などは授業中に伝えている」が93.7%、「授業、学習支援の充実が大学生活の充実につながると思う」が91.4%で続いていた。
- 一方、最も低かったのは「理解不足の学生へのサポート体制はしっかりしている」の83.3%であった。次いで「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」が85.1%、「同科目で異教員でも成績評価は統一されている」が87.9%となっており、「同科目で異なる教員の対応」にやや課題を感じている様子もうかがえた。
- 年度別に比較したところ大きな変化は見られなかったが、「授業のつながりなどはシラバスで説明している」と「同科目で異教員でも成績評価は統一されている」が過去最高となっており、改善は進んでいるようであった。



■KITでの満足度

- 最初に「今のKITに満足している」を見ると、「教員」では「そう思う」が14.4%、「まあそう思う」が50.6%であり、合わせると満足度は64.9%となっていた。「職員」では「そう思う」が11.2%、「まあそう思う」が39.6%で、満足度は50.7%となり、「教員」を14.2ポイント下回っていた。そして、「職員」では「そう思わない」が13.4%と多い点も気になった。
- 満足度も含めて、すべての項目で「教員」の方が肯定的な意見が多かったが、最も差が大きかったのは「KITでの業務を通して自己実現できている」の15.6ポイントであった。
- 一方、最も差が小さかったのは「KITの建学の精神に共感できる」の2.9ポイントであり、両者の差は非常に小さかった。



継続的な改善活動のために!

在学生・卒業生・教職員

2024 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

■発行日	令和6年12月1日
■発行者	学校法人 金沢工業大学
■調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
■編集	金沢工業大学企画部CS係

無断複製厳禁